

上智大学大学院

研究科・専攻の教育研究上の目的、人材養成の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）及びアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

目次

1. 神学研究科	4
神学専攻（博士前期課程）	4
組織神学専攻（博士後期課程）	5
2. 文学研究科	6
哲学専攻（博士前期課程）	6
哲学専攻（博士後期課程）	7
史学専攻（博士前期課程）	8
史学専攻（博士後期課程）	9
国文学専攻（博士前期課程）	10
国文学専攻（博士後期課程）	11
英米文学専攻（博士前期課程）	12
英米文学専攻（博士後期課程）	13
ドイツ文学専攻（博士前期課程）	14
ドイツ文学専攻（博士後期課程）	15
フランス文学専攻（博士前期課程）	16
フランス文学専攻（博士後期課程）	17
新聞学専攻（博士前期課程）	17
新聞学専攻（博士後期課程）	18
文化交渉学専攻（博士前期課程）	19
文化交渉学専攻（博士後期課程）	20
3. 実践宗教学研究科	21
死生学（博士前期課程）	21
死生学（博士後期課程）	22
4. 総合人間科学研究科	23
教育学専攻（博士前期課程）	23
教育学専攻（博士後期課程）	24
心理学専攻（博士前期課程）	25
心理学専攻（博士後期課程）	27
社会学専攻（博士前期課程）	28
社会学専攻（博士後期課程）	29
社会福祉学専攻（博士前期課程）	30
社会福祉学専攻（博士後期課程）	31
看護学専攻（修士課程）	31

5. 法学研究科	32
法律学専攻（博士前期課程）	33
法律学専攻（博士後期課程）	33
法曹養成専攻（法科大学院）	34
6. 経済学研究科	37
経済学専攻（博士前期課程）	37
経済学専攻（博士後期課程）	38
経営学専攻（博士前期課程）	38
経営学専攻（博士後期課程）	39
7. 言語科学研究科	40
言語学専攻（博士前期課程）	40
言語学専攻（博士後期課程）	41
8. グローバル・スタディーズ研究科	42
国際関係論専攻（博士前期課程）	42
国際関係論専攻（博士後期課程）	44
地域研究専攻（博士前期課程）	45
地域研究専攻（博士後期課程）	46
グローバル社会専攻（博士前期課程）	46
グローバル社会専攻（博士後期課程）	49
国際協力学専攻（修士課程）	50
9. 理工学研究科	52
理工学専攻（博士前期課程）	52
理工学専攻（博士後期課程）	53
機械工学領域（博士前期課程）	54
機械工学領域（博士後期課程）	55
電気・電子工学領域（博士前期課程）	56
電気・電子工学領域（博士後期課程）	57
応用化学領域（博士前期課程）	58
応用化学領域（博士後期課程）	58
化学領域（博士前期課程）	59
化学領域（博士後期課程）	60
数学領域（博士前期課程）	61
数学領域（博士後期課程）	62

物理学領域（博士前期課程）	63
物理学領域（博士後期課程）	64
生物科学領域（博士前期課程）	64
生物科学領域（博士後期課程）	65
情報学領域（博士前期課程）	66
情報学領域（博士後期課程）	67
グリーンサイエンス・エンジニアリング領域（博士前期課程）	68
グリーンサイエンス・エンジニアリング領域（博士後期課程）	69
10. 地球環境学研究科	70
地球環境学専攻（博士前期課程）	70
地球環境学専攻（博士後期課程）	71
11. 応用データサイエンス学位プログラム	72

1. 神学研究科

〔教育研究上の目的及び人材養成の目的〕

前期課程には、修士に加えてカトリック教会の教授資格 (STL) を与える組織神学コース、聖書研究の方法論を身につける聖書神学コース (M.Bib を授与)、宣教や司牧の実践について学ぶキリスト教教育コース (M.Div を授与) 及び教会での奉仕の現場にたずさわる人々を養成する宣教実務者コースを設けるが、いずれも神学全般についての知識と理解を重視する。また研究者養成を主目的とする後期課程 (条件を満たせばカトリック教会の学位 STD を授与) においては、研究のみでなく教育訓練を課程に組み込む。カトリック司祭・修道者とカトリック学校での宗教科教員の養成、及び自己のキリスト教信仰を客観的・批判的に省察することにより教会に貢献できる人材養成を主目的とする。

神学専攻 (博士前期課程)

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 神学を基礎的・中心的研究対象とし、世界的視野の下で、他の思想・文化・宗教との対話の重要性にも注意することができる力

各コースごとには次の力を身につけたものとする

a. 組織神学コースでは、カトリック教会における司祭の養成をはじめ、体系的なカトリック神学を研究する能力

b. 聖書神学コースでは、聖書研究の方法論を研究する能力

c. キリスト教教育コースでは、基礎的な神学理論を踏まえながら、実践的な司牧のあり方について研究する能力

d. 宣教実務者コースでは、教会における奉仕の現場に携わる人材としての能力

2. 修士論文および課題研究報告書の作成において、論文構成が的確であり、論理展開に整合性・一貫性があり、説得力のある学術論文を作成する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. カトリック神学の伝統に基づいて、キリスト教に関する専門科目を、包括的・展開的に開設する。

2. 教義神学、教会史、キリスト教教育、キリスト教文学、聖書神学、聖書釈義、倫理神学、教会法、典礼神学、霊性神学、ギリシア語・ヒブル語などの古典文献学の科目を開設する。

3. 基礎的学習の専門性を深めるために、組織神学コース、聖書神学コース、キリスト教教育コース、宣教実務者コースの4コースを設置する。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. カトリック神学の基礎を修得し、論理的思考・論述力がある学生
2. 英語をはじめ専門分野に関する語学力があり、異文化・国際性に開かれている学生
3. 人間の尊厳・基本的人権を適切に認識するとともに、社会正義の理解・実践に積極的である学生

組織神学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。なお、必要要件を満たしている場合には、教皇庁立学位 STD (Sacrae Theologiae Doctor) の学位も授与することができます。

1. カトリック神学の基礎を踏まえながら、自らの研究テーマを独創的な観点から取り上げ、それを論理的・発展的に提示することができる力
2. 西洋において発展したカトリック神学の研究とともに、日本の思想・文化との対話を通して、独自の神学の樹立を目指すことができる力
3. 博士論文の作成において、論文構成が的確であり、論理展開に整合性・一貫性があり、先行研究を十分に踏まえて、独自性のある高度な学術論文を作成する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 研究指導と教育訓練からなる。研究指導では、指導教員の下で博士論文の作成、および学会等での研究発表を指導する。教育訓練は、指導教員、あるいは研究科委員長が適切だと認めた研究科教員の講義・演習科目における、講義実習や演習指導実習によって行う。
2. 組織神学、聖書学、実践神学、キリスト教文化の各分野の科目を開設する。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 自らの研究テーマを独創的な観点から取り上げ、それを論理的・発展的に構築し、それを国際的にも提示できる学生
2. 基礎的な哲学的素養を修得しているとともに、英語をはじめ専門領域に関する高度な語学力がある学生
3. 自らの研究を通して、キリスト教的価値観・意義を、カトリック世界に止まらず、広く一般社会にも提示・貢献できる学生

2. 文学研究科

〔教育研究上の目的及び人材養成の目的〕

幅広い教養と柔軟な思考力を持ち、世界と未来に開かれた新しい知を創造する力を伸ばすために、文化の総体の探究、現代社会との連結、語学能力の重視に重点を置いた実践教育を行い、社会、文化の発展に貢献しうる人材を養成する。前期課程では、研究者の養成を目指すとともに、高度な専門知識によって職業的能力を向上させる。後期課程では、国際的な水準で広く活躍し、将来、各々の分野で研究・教育に携わる人材の育成を期する。

哲学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 西洋哲学史全般に関する基礎知識をもとに、各自の研究テーマを掘り下げて、じっくり考える力と、時流に流されない深い学識
2. 現代社会のグローバルな危機に対して、対症療法に終わらない深い次元から解決の方向を見出す洞察力と賢慮
3. 複数の外国語（英・独・仏・ギリシア・ラテン）を読む力と難解な古典文献の読解力
4. 書き言葉と話し言葉の両面にわたる適切な表現の能力および文化的に異なる背景をもった人々を説得できる力
5. 専門分野の研究実践能力を獲得し、修士論文をまとめる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、哲学専修コースおよび現代思想コースの 2 つのコースを設置し、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 哲学専修コースでは、古代から中世を経て近・現代へ至る西洋哲学の歴史をふまえて、科学、芸術、文化、宗教のあり方を根本から考えるとともに、哲学の文献研究の基礎を学ばせる。
2. 古代から近代まで哲学の古典的著作を原典（英・独・仏・ラテン・ギリシア）で精読する文献研究を開設する。
3. 現代思想コースでは、現代的な視座から哲学の根本問題を考察し、環境、生命、医療など現代社会が直面する多様な倫理的問題をとりあげる。文献研究以外に現代倫理学、美学・芸術学、東洋思想、日本思想、宗教思想などの科目を開設する。
4. 両コースに共通の必修科目「哲学総合演習 A、B」によって、各自が自分の研究を発表し、討論する機会を設ける。関心の枠を拡げ、質疑応答や意見交換によって哲学的思索を深め、共同研究のやり方を幅広く学ぶ。また授業の一部を英語で行うなど、国際的な研究水準を意識させる。
5. 入学後に各自の希望によって指導教員を決定し、個別の研究指導を通じて自分の勉学を深め、最終的

には修士論文へと結実させる。

6. 後期課程進学を希望する者は、大学院生の編集する『上智哲学誌』への投稿、上智哲学会での研究発表や『哲学論集』への投稿、などを通じて、学会発表を経験させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 前期課程は哲学専修コースと現代思想コースの2つのコースがあり、カリキュラム上では必修・選択科目に関して相違点がある。どちらのコースも、本学の哲学科の卒業予定者・既卒者のみならず、他大学他学部卒業予定者、既卒者、も同じ条件で受験可能。
2. 哲学専修コースの志望者には、①明確な研究テーマと問題意識、②哲学の古典的著作を原典で読むために必要な語学力、③西洋哲学史に関する基本的な知識、④ある程度の長さの論文を作成した経験、がある学生
3. 現代思想コースの志望者には、①明確な研究テーマと問題意識、②広汎な社会的・現代的諸問題に対する関心と予備知識、③研究遂行のために必要な語学力、④ある程度の長さの論文を作成した経験、がある学生

哲学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 論文の個人指導や国内外の研究者との交流を通して得た知識により、学会での発表ができる能力と、それらを踏まえ博士論文としてその成果をまとめる能力
2. 複数の外国語（英・独・仏・ギリシア・ラテン）を読む力と難解な古典文献の読解力
3. 書き言葉と話し言葉の両面にわたる適切な表現の能力および文化的に異なる背景をもった人々を説得できる力
4. 専門研究者として、大学等の高等教育機関において教育・指導にあたる能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、専門的哲学研究者（大学・短大・高専の教員）の養成を主眼とし、また国際的な舞台で活躍できる人材を育成するようにカリキュラムを編成しています。

1. 哲学の歴史研究においては文献講読を中心とし、古代から現代までを扱う「哲学特殊研究」を複数開設する。
2. 文献研究以外に、現代倫理学、美学・芸術学、東洋思想、日本思想、宗教思想などを開設する。
3. 各自が自分の研究を発表し討論する 必修科目「哲学特殊研究 A、 B」を開設する。
4. 後期課程進学後に各自の希望によって指導教員を決定し、個別の研究指導を通じて自分の勉学を深め、口頭発表や論文投稿など学会活動を通じて研究成果を発表しつつ、最終的には博士論文へと結実させる。

5. 大学院生の編集する『上智哲学誌』への投稿、上智哲学会での研究発表、『哲学論集』への投稿などを通じて、学会発表を経験させる。
6. 本学の恵まれた条件を活かして海外留学を推奨する。また授業の一部を英語で行うなど、国際的な研究水準を意識させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 後期課程では専門の哲学研究者の養成に主眼を置くので、①修士論文の一定以上の成績、②文献を読解する語学力、③明確な研究計画と将来設計、をもつことが要求される。
2. 高校教員や出版社など狭義の研究者以外の職業を目指す者も歓迎する。志望動機とそれを裏付ける勉学の実践、将来像が入学判定の成否となる。

史学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。所定の単位を修得し、研究指導を受けたうえで修士論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 明確な問題意識に基づいてテーマ設定ができ、歴史研究の知識向上に寄与できる力
2. 先行研究を十分に検討・吟味し、出典の記載や引用を適切に行うことができる力
3. 史・資料に基づいた実証研究を行うことができる力
4. 論文作成において、的確な論文構成や整合性のある論理構成をとることができる力
5. 適切な言語表現ができ、論文全体を整った体裁にまとめることができる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、歴史学の幅広くかつ深い知識を極め、鋭い分析・批判能力を培うよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 地域的（日本史・東洋史・西洋史）、時代的（古代史・中世史・近世史・近現代史）に細分化された領域に配置された教員が、テーマに最も近い学生を「研究指導」する。
2. 学生が、上記の特定領域の史料読解力を磨き、研究史を学ぶ「演習」を開設する。
3. 地域・時代を超えた学生が集まり、歴史学の比較研究や幅広い論を行い、自分の専門領域をより客観的に見る姿勢を養う「特研」を開設する。
4. 学生が、修士論文完成まで数度経過報告を行い、論文のまとめ方を修得する「修士論文演習」を開設する。
5. 学生の専門領域を深めるために、指導教員の承認を得たうえで、他専攻の科目や、他研究科の科目、ならびに協定を結んだ他大学大学院の科目を、一定の条件の下で履修させることがある。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 歴史学の成果を研究・教育・社会啓蒙の分野で生かし、社会の発展に貢献しようという意欲のある学生
2. 研究対象を理解するのに必要な、歴史的基礎知識や能力（語学力・調査能力・批判力など）を持つ学生
3. 研究対象を、長い時間軸の中でとらえる視点と、他の事例と比較する視点を持ち、問題発見能力を持っている学生

史学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けたうえで、博士論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 明確な問題意識に基づいてテーマ設定ができ、対象分野に関する新しい史実の発見、ないしは既知の史実に対する新しい解釈の提示ができる力
2. 先行研究を網羅的に検討・吟味し、出典の記載や引用を適切に行うことができる力
3. 史・資料に基づく実証研究を行うことができる力
4. 論文作成において、的確な論文構成や整合性のある論理構成をとることができる力
5. 適切な言語表現ができ、論文全体を整った体裁にまとめることができる力
6. 独創的かつ先端的な研究を行い、自立的研究者として研究を遂行できる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 自分のテーマに最も近い教員を指導教員として学生が選ぶ「研究指導」を開設する。
2. 自分のテーマでの史料講読や研究史を教員の指導下で学びつつ、論文執筆の途中経過を報告して論文作成を進める「博士論文演習」を開設する。
3. 本専攻課程の授業以外に、学生は、指導教員の承認を得たうえで、海外留学や学会・研究会報告を行い、研究者としての研鑽を積む。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 歴史学研究成果を研究・教育・社会啓蒙の分野で生かし、社会の発展に貢献しようとする意欲のある学生
2. 歴史全般にわたる正確で十分な基礎知識を持ち、研究対象を調べるのに必要な能力（語学力・調査能

力・批判力など)を持つ学生

3. 新たな史実の発見や、歴史事象に関する新解釈を構築する力があり、それを社会に対する高い見識と結びつけることができる学生

国文学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力と教育実践能力を有し、広く社会、世界に貢献することができる能力
2. 国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力また教育実践能力に基づいた、教育者としての能力を養成することができる能力
3. 高度な知識と緻密な分析に依拠し、的確に構成された修士論文を書く能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、古典学を研究・教育の根幹に置いた「国文学」を総合的に追究するために、本課程において開設する特殊講義・演習の科目、及び世界から見た日本文学の科目を学生が履修するよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 古典学を研究・教育の根幹に置いた国語学を追究するために、国語学特殊講義・演習の科目を開設する。
2. 古典学を研究・教育の根幹に置いた古典文学を追究するために、古典文学特殊講義・演習の科目を開設する。
3. 古典学を研究・教育の根幹に置いた近代文学を追究するために、近代文学特殊講義・演習の科目を開設する。
4. 古典学を研究・教育の根幹に置いた漢文学を追究するために、漢文学特殊講義・演習の科目を開設する。
5. 「国文学」の総合的な知見に基づいた修士論文を執筆するために、研究指導をする。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 上智大学文学部国文学科において、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を有機的に連関させて総合的に追究し、「国文学」を学問として修得してきた者で、上智大学大学院文学研究科国文学専攻博士前期課程において、日本文化研究の中核を担うための、さらに上級の学問を修得することを目指す学生
2. 他大学、他学科において同等の学問を修得する者についても、上智大学大学院文学研究科国文学専攻博士前期課程において、日本文化研究の中核を担うための、さらに上級の学問を修得することを目指す

学生

3. 社会人として上記と同等の学問を修得する者についても、上智大学大学院文学研究科国文学専攻博士前期課程において、日本文化研究の中核を担うための、さらに上級の学問を修得することを目指す学生

国文学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 博士前期課程に修得した能力をさらに伸張し、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力また教育実践能力に基づいた、教育ができる能力
2. 博士前期課程に修得した能力をさらに伸張し、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力と教育実践能力を有し、広く社会、世界に貢献することができる能力
3. 博士前期課程に修得した能力をさらに伸張し、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力また教育実践能力に基づき、国文学の伝統を継承し、発展させる意欲を持ち、自立した研究活動を展開する、研究者として自立できる能力
4. 自立した研究者として、学会での口頭発表・学術論文の執筆を踏まえ、博士論文としてその成果をまとめる能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、古典学を研究・教育の根幹に置いた「国文学」を総合的に追究するために、本課程において開設する特殊研究の科目、及び世界から見た日本文学の科目を履修するよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 古典学を研究・教育の根幹に置いた国語学を追究するために、国語学特殊研究の科目を開設する。
2. 古典学を研究・教育の根幹に置いた古典文学を追究するために、古典文学特殊研究の科目を開設する。
3. 古典学を研究・教育の根幹に置いた近代文学を追究するために、近代文学特殊研究の科目を開設する。
4. 古典学を研究・教育の根幹に置いた漢文学を追究するために、漢文学特殊研究の科目を開設する。
5. 「国文学」の総合的な知見に基づいた学位論文を執筆するために、研究指導をする。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 上智大学大学院文学研究科国文学専攻博士前期課程において、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を有機的に関連させて総合的に追究する、「国文学」を学問として修得する者は、上智大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程において、日本文化研究の中核を担うための、さらに上級の学問を修得することを目指す学生
2. 他大学大学院において同等の学問を修得する者についても、上智大学大学院文学研究科国文学専攻博

士後期課程において、日本文化研究の中核を担うための、さらに上級の学問を修得することを目指す学生

英米文学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。キリスト教的ヒューマニズムに基づき、英米文学を西欧文明という大きな全体の一環をなす試みとして理解し研究した学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め学位を授与します。

1. 人文学的な教養を基礎とし、英米文学、英語学・英語教育を歴史、宗教、思想、文化の諸領域との広範なつながりを射程に入れて理解することができる力
2. 研究や教育を遂行するための高度な英語能力と基礎からの研究能力
3. 英米の文学・思想・文化、英語学・英語教育についての体系的かつ専門的な知識
4. 適切な構成、緻密な分析、明快な論理展開、豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力
5. 専門研究者として大学等の高等教育研究機関において教育や研究に当たるにふさわしい能力（Aコース）
6. 英米文学や英語学の高度な知見をもって英語教育を行なう中高教員、その他の職業に従事するための能力（Bコース）

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、高度な英語能力と英米文学・思想・文化、英語学・英語教育についての知識が獲得できるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 特別講義・演習をバランス良く受講し、体系的かつ専門的な知識を身につけるように指導する。1年次はアドバイザーによる研究指導を受け、2年次は専門分野の指導教員（メンター）のもとで研究を進める。
2. 修士1年で「文学研究法Ⅰ」（日本語）と「文学研究法Ⅱ」（英語）を必修として開設し、リサーチ、研究発表、論文執筆を英語と日本語で行えるようになることを目指して基礎力を養う。
3. 大学教員、中高教員、あるいは英語英文学における知識や技能を生かした進路に進むための訓練をする。
4. Aコース（後期課程進学コース）の学生は、2年次にメンターによる研究指導を受けながら修士論文（英語）を作成し、後期課程に進み専門研究者となることを目指す。
5. Bコース（前期課程完結コース）の学生は、2年次にメンターによる研究指導を受けながら修士論文（英語・日本語）あるいはリサーチ・ペーパーを作成し、研究の基礎を学ぶ。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 研究分野に対する積極的な関心と、学業への誠実な意志を持っている学生
2. 研究を遂行する為に必要な優れた語学力と英米文学、英語学・英語教育分野における基礎的知識を有している学生
3. 大学、中高において、専門技能を生かした研究や教育にたずさわるか、あるいは高度な英語力と専門知識を生かす職業に従事する目的を持っている学生

英米文学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、英米文学・英語学・文化研究の専門研究者として学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 人文学としての文学研究という視点から、専門的知識と共に広い分野における知識
2. 指導教授（メンター）による研究指導を受け、英米の文学・思想・文化、英語学・英語教育についての専門研究にたずさわることができる力
3. 独自の研究テーマを探求する技能
4. 大学、その他の研究機関における教育研究職に従事するための英語力と技能
5. 適切な構成、緻密な分析、明快な論理展開、豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、専門研究者となるための研究方法を修得し、専門テーマに関する研究を行うことができるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. リーディング・コースを毎年履修し、専門的知識を獲得すると共に、幅広い視野を身につけるように指導する。
2. リサーチを進め、学内外で研究発表を行い、研究論文を公表するように指導する。
3. 博士予備論文作成を指導する。
4. 英語運用能力の向上を図り、英語圏の大学や研究機関に長期あるいは短期留学できるように指導する。
5. 博士論文のテーマを定め、博士予備論文を執筆し、博士号取得に向けた研究を進めるように指導する。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 研究分野への真摯な関心と、学問に対する誠実な意志を持っている学生
2. 研究を遂行するために優れた語学力と、英米文学、英語学・英語教育分野における専門知識を有して

いる学生

3. 大学において、専門技能を生かした教育・研究職に就くという目的を持っている学生

ドイツ文学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。ドイツ語圏文学・文化に関する専門的な知見と研究に必要な能力を修得の上、研究成果として学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 専門的な研究を行うのに十分なドイツ語運用能力を修得し、原典や参考文献などのテキストを的確に理解し、ドイツ語で論理的な文章を書き、学問的な議論を行うことができる力
2. ドイツ語圏のさまざまな地域や時代の文化現象に対する知識と理解を深め、それを多様な視点から考察し、研究するに値するテーマを自分で設定することができる力
3. 適切な構成、緻密な分析、明快な論理展開、豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力
4. ドイツ語圏の文化や社会に対する強い関心と深い知見に基づき、自国の文化や社会を世界との関連において俯瞰する視座を獲得し、他国との相互理解、文化交流に貢献できる力
5. 自国とは異なる文化や思想をその歴史的背景とともに理解することによって、世界の多様さと豊かさを認識し、他者に対する想像力と開かれた精神をもって、現代世界のさまざまな問題と向き合うことができる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、ドイツ語圏の文学・文化をヨーロッパの歴史的文脈のなかで理解し、自分で研究テーマを見つけ、その成果を学術論文にまとめることができるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. すべての授業において、専門的な研究を行うのに必要なドイツ語運用能力を身につけることを目指し、ドイツ語で行う授業を複数用意する。
2. ドイツ語圏の文学・文化をヨーロッパの歴史的文脈のなかで理解し、その多様性と豊かさに触れるために、さまざまな時代や地域に関する授業を開設する。
3. 各授業や文学研究の方法論に関する授業を通して、問題意識を深め、自分でテーマを設定できる力を養う。またレポート作成を通して、分析能力、論理的思考力、言語表現力を身につけさせる。
4. 授業での討論、修士論文中間発表会などを通して、自分の見解を論理的に説得力をもって伝える力を培うと同時に、他者の見解を理解し、そこから新たな視点を獲得する能力を養成する。
5. 教員の個別指導の下、研究テーマを決定し、日本語（要ドイツ語レジュメ）ないしはドイツ語で修士論文を書くことを課す。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. ドイツ語圏の文学・文化について専門的に研究するために必要なドイツ語運用能力をもつ学生
2. ドイツ語圏の文学・文化・歴史を専門的に研究したいという強い意欲と、それに必要な基礎的な知識をもつ学生
3. 問題意識をもって学び、研究するに値するテーマを決定し、それを学問的な論文にまとめあげることのできる、柔軟な発想、緻密な分析能力、論理的思考力、豊かな言語表現力をもつ学生

ドイツ文学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。ドイツ語圏文学・文化に関する高度の研究能力を修得し、その分野における研究者として活躍できるようになることを目指して学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 専門的な研究に必要な高度のドイツ語運用能力を修得し、原典や参考文献などのテキストを的確に理解し、ドイツ語で論理的な文章を書き、学問的な議論を行うことができる力
2. ドイツ語圏文学・文化をヨーロッパの歴史的な文脈のなかで理解し、専門領域への洞察を深めると同時に、広い視野と複眼的な視点によって研究対象、研究方法を見定めることができる力
3. 自分の研究が、研究史においてどのように位置づけられるかを把握し、新たな知見をもたらすテーマを自分で設定することができる力
4. 適切な構成、緻密な分析、明快な論理展開、豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力
5. ドイツ語圏の文化や社会に対する強い関心と専門的な知識に基づき、自国の文化や社会を世界との関連において俯瞰する視野を獲得し、諸外国との文化交流に貢献できる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、ドイツ語圏の文学・文化についての専門的な理解と考察を深め、専門領域において新たな知見をもたらす博士論文を提出できるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. すべての授業において、専門的な研究を行うのに必要な高度なドイツ語運用能力を向上させることを目指しドイツ語で行う授業を複数用意する。
2. ドイツ語圏文学・文化をヨーロッパの歴史的な文脈のなかで理解し、多角的な視点と問題意識をもてるよう、さまざまな時代や地域に関する授業を開設する。
3. 各授業や文学研究の方法論に関する授業を通して問題意識を深め、自分でテーマを設定できる力を養う。またレポート作成を通して、分析能力、論理的思考力、言語表現力を身につけさせる。
4. 授業での討論、論文発表会などを通して、自分の見解を論理的に説得力をもって伝える力を培うと同時に、学問的な議論を行う能力を養成する。
5. 学生は、指導教員の個別指導の下、まずは院生の雑誌に学術論文を執筆し、論文の書き方を具体的に

徹底して身につけ、それをさらに発展させて、博士論文を執筆する。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. ドイツ語圏の文学・文化について専門的に研究したいという強い意欲をもち、それを行うのに必要な高度のドイツ語運用能力を備えた学生
2. ドイツ語圏の文学・文化・歴史に関する専門的知識をもち、専門領域に新たな知見をもたらす研究テーマを設定できる広い視野と柔軟な発想を有する学生
3. 大部の学術論文をまとめあげるために必要な緻密な分析能力、論理的思考力、豊かな言語表現力をもつ学生

フランス文学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。複眼的視点と問題意識をもって専門的な知識と深い教養を獲得した上で、研究の成果として優れた学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関する高水準の専門的研究をすることができる能力
2. 専門的な研究を遂行しうる高度なフランス語運用能力
3. フランスおよびフランス語圏の文化・芸術に関する深い教養
4. 専門的な知識に基づいた的確な分析と論理的かつ説得的な構成・展開を備えた学術論文を書くことができる能力
5. さまざまな分野で職業人として活躍しうる能力・適性

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、フランスおよびフランス語圏の文学・芸術の研究に関して、方法論を深化させ、多様な興味・関心を抱くことのできるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関して、研究方法の修得・深化に役立つ専門的教育を行う。
2. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関して、多様な興味・関心を喚起しうる専門的教育を行う。
3. 高度なフランス語運用能力を養成するための実践的な語学的訓練を行う。
4. 修士論文作成のために、テーマの掘り下げ、プランの策定、論述の整備など、きめ細かい指導をする。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 専門的研究を遂行するための十分な意欲と能力をもつ学生
2. 情報の収集、分析、総合を的確におこない、かつ研究成果を正確に伝達する能力をもつ学生
3. 専門の枠にとらわれず広く芸術・文化の諸問題に関心をもつ学生

フランス文学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。各人の専門において先端的な知識と高度な幅広い教養を獲得した上で、研究の成果として優れた学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関して、国際的な水準で通用しうる高度な専門的研究をすることができる能力
2. 国際的な学的交流を可能にする高度なフランス語運用能力
3. フランスおよびフランス語圏の文化・芸術についての極めて深い見識
4. 専門的な知識、先行研究の精査に基づく的確な分析と論理的かつ説得的な構成・展開を備えた学位論文を書くことができる能力
5. 専門的な知識やフランス語運用能力を教育の現場に生かすことのできる能力・適性

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、フランスおよびフランス語圏の文学・芸術の研究に関して、国際的なレベルでのテーマと方法論の基準と選択について意識を高めるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関する「特殊研究」を複数開設する。
2. 博士論文作成のために、テーマの掘り下げ、プランの策定、論述の整備など、きめ細かい指導を行う。
3. 給費留学や研究集会での発表など、研究者としての国際的な活動に道を開くための手助けをする。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 国際的な水準で高度な専門的研究を遂行するための十分な意欲と能力をもつ学生
2. 情報の収集、分析、総合を的確におこない、それを独創的な研究成果としてまとめる能力をもつ学生
3. 専門の枠にとらわれない学際的視野をもって学問研究に励むことのできる学生

新聞学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。幅広くマス・コミュ

ニケーションとジャーナリズムを学習して所定の単位を修得し、学位論文を提出しその審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. カリキュラム・ポリシーが示す3分野の基礎知識を修得し、及びそれらを現前するメディアやジャーナリズムに関する諸問題の解決に応用できるだけの力
2. 幅広い関心領域を有し、情報化社会において今後新たに次々と生起する諸問題にその都度関心を払い、それらに対して独自の洗練された問題意識を持って臨むことができる力
3. 問題意識と方法論をもって、修士論文を完成させ、一定程度以上の評価を得ることができる力
4. 学外の情報にも広くアンテナを張って、情報収集を行い、自己の研究に有益な情報を修得すべく自ら努力できる力
5. 一定の様式を備えたレポートや口頭発表によって、自己の研究成果や思想を効果的に伝達する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、効率的な学習によって、ディプロマ・ポリシーに示す目標を達成できるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. マス・コミュニケーション理論、ジャーナリズム論、メディア分析の3分野を基本に据えたカリキュラムを構成し、その上で演習を配置し院生が主体的に学問に取り組める体制とする。
2. メディア・ジャーナリズムをとりまく今日の諸問題を扱う科目をその都度設置して、院生の関心に応じて時代の潮流に沿った柔軟な研究が可能となる体制とする。
3. 修士論文を完成させるため、指導教員の指導のもと、各自の研究を推進させる体制を整えている。中間発表会を設置することで、修士論文の進捗状況をすべての教員が把握できる仕組みとする。
4. 大学院の社会学分野単位相互互換制度により、他大学大学院の開設科目の履修を認める。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. カリキュラム・ポリシーで示した3分野に関して、修士課程の授業に耐えられるだけの基礎知識を有することが不可欠で、基本的には学部においてメディアやジャーナリズムの専門教育を受けている学生
2. 外国語の文献を読む機会も多いことから、英語を中心とした語学力を有することが必要となる。外国人の場合には、日本語能力試験N1と同等あるいはそれ以上の日本語能力が必要となる。
3. メディアやジャーナリズムの実務の現場で経験を積んだ学生が、その経験に基づく問題意識をもって研究する場として、社会人にも門戸を広げている。

新聞学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。所定の単位取得および学位論文を提出しその審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 研究領域における学問的方法論および高度な専門知識を有し、ジャーナリズム論、メディア論、情報

社会論などを中心に自己のテーマ領域を確立する力

2. 自己のテーマ領域に関して、過去の諸研究を広くレビューしており、他者に対して適宜要点を伝える能力を有する力
3. 国際的な視野に立った討論や分析を行う能力を持ち、国内外の学会等で最先端の研究成果を発表できる力
4. 独自の研究テーマを持ち、今後、研究者として自立して研究を遂行していくための計画を立てる力
5. 自己の研究テーマの研鑽を通じて培った高度な専門知識や倫理感を以て、国際社会に広く貢献できる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、研究者として自己のテーマ領域を打ち立てるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 在学期間内に博士論文を完成することを目指し、指導教員のもと入学後 3 か年以内に 12 単位の演習および在学中研究指導を受けさせる。
2. 学位申請論文については、入学後 1 年を経て論文提出資格を得る試験に合格した者に対して執筆を許可する。
3. 論文執筆前に、自己の研究テーマに関して、日本マス・コミュニケーション学会他、国内外の関連学会において積極的に発表を行うことを推奨し、指導をする。
4. 論文執筆の途中段階において随時、指導教員および当該テーマを専門とする教員による助言と評価を仰ぐことができる体制とする。
5. 論文審査は学外の審査委員（副査）を含む審査委員会によって行われ、公開試験後の審査委員会において合格判定を得られた場合に、学位を授与する。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、メディアの領域における独自の関心テーマを有し、各領域における最先端の研究を志向する学生
2. 豊富な専門知識を背景に、自己のテーマに対し様々な方法論を駆使してアプローチする能力を有する学生
3. 常に研究領域を拡大し、新たな視野から国際社会の理解に資することを目指す学生

文化交渉学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 修士論文の作成にあたって、先行研究を十分にふまえ、既存の学問領域の枠にとらわれずに、適切な

テーマを設定する力

2. テーマ設定に基づき、その解決のために必要な資料を読解し分析する能力
3. 緻密な分析、論旨の整備等がそなわった明快な論文を作成する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、多元文化相互の接触や交渉に、幅広い観点から目を向けるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 異文化をどのように捉えるのかをテーマに、さまざまな文化の特質、文化形成の歴史的経緯などを研究する。
2. 文化交渉の手段の一つであり、新しい文化創造の契機にもなる翻訳について、文学と芸術の関わりを含めて研究する。
3. 諸文化が会うときに生じる軋轢や、受けとめる様相などを見つめ、新しい文化創造に向かう過程に着目して研究する。
4. 研究、論文作成の基本に習熟するために、「論文作成法」を履修し、修士論文作成にそなえさせる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. さまざまな文化に強い好奇心をもち、さらに、各文化間の交渉の様相や、交渉の結果生じる変容等に興味をもつ学生
2. 哲学、文学、史学等、文科系の既存の学問領域を越え、或いは、科学技術といった理科系の分野まで含めた幅広い文化のありように関心をもつ学生
3. 英語または日本語で、修士論文を作成しなければならないため、論理的思考能力と、当該語学の基礎的な作文能力を有する学生

文化交渉学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 博士論文において、先行研究を十分にふまえ、緻密な分析にもとづき、独自に新しい学説を打ち出す力
2. 博士論文の核になる論文を、学会における発表や、雑誌論文への投稿によって、積極的に世に問う力
3. 修了後も、研究者としての自覚をもって、必要に応じて海外で活動するなど、研究を深化させる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、本専攻の特色を生かした博士論文作成に向けて、資料の読解、テーマの深化、論文作成の要諦などを教授するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、さらに高度な研究をさせる。
2. 開講科目の履修と個別指導を通じ、研究者としての自覚をもたせ、文化創造の基盤となる資料の取り扱いに、さらにみがきをかける。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 修士論文の成果を発展させ、さらに高度な研究を行なって、博士の学位取得をめざす意欲のある学生
2. 研究を深めるとともに、常に研究領域の拡大を考えて、新たな視野から国際的な文化理解に資するよう努力する学生
3. 自己の研究成果を、学会における発表や、雑誌論文への投稿を通じて、積極的に公にする姿勢をもつ学生

3. 実践宗教学研究科

〔教育研究上の目的及び人材養成の目的〕

現代社会の宗教的思想的基盤を研究するとともに、新たな取り組みが求められる現代の死生学的課題について、価値多元化社会における宗教の社会的役割、死生観及び生命倫理、臨床スピリチュアルケアの三視点から研究・教育を行う。また、スピリチュアリティを基盤にしたケアの実践的対応能力の修得を目指す。これらを通じて実践力のある研究者、臨床家、コミュニティケア人材、ケア指導者等を養成する。

死生学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 「宗教の公共性」「死生観・生命倫理」「臨床スピリチュアルケア」のいずれかの学問分野における研究課題を理解することができ、基礎的研究に主体的に取り組む力
2. 現場における研究の実践的な意味や役割を理解する力
3. 論理的かつ学術的に構成された修士論文をとおして、実践的課題探求並びに学術に貢献する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 必修科目「死生学研究法Ⅰ」「死生学研究法Ⅱ」「英語文献講読」を通して研究の基礎となる方法論や研究倫理を修得する。「宗教の公共性」「死生観・生命倫理」「臨床スピリチュアルケア」の3学群から、演習科目3科目（6単位）を選択必修科目として履修し、研究学問分野について研鑽を深める。さらに、選択科目を通して関連領域の学際的知識を深める。
2. 宗教・伝統・歴史・思想にかかわる人文社会科学の高度な学際的・専門的知識を深めると同時に、インターンシップ科目や実習科目の履修で死生学的課題の現場に直接参与する経験を通し、死生学的課題について実践的な問題理解力を修得させる。
3. 入学直後に指定される指導教員による、毎学期の「研究指導」科目における密接な研究指導のもと、適切な課題理解と研究方法に基づく修士論文を作成させる。

【アドミッション・ポリシー】

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 人文学・社会科学・心理・福祉・医療等の分野において学士の学位を取得しているもしくは取得予定で、現代社会で生じるさまざまな問題に対して宗教文化や倫理思想的伝統を踏まえて対応する知の領域、もしくは人文社会科学とスピリチュアルケアの実習を土台に医療やケアの諸問題また地域社会の実践的・臨床的な問題に対応する実践的領域に関心のある学生
2. 日本スピリチュアルケア学会認定教育プログラム等において、グリーンケア、スピリチュアルケア提供者としての訓練を積み、さらに高度なケア人材としての研鑽を望む学生
3. その他、上記と同等の学力・適性を有する学生

死生学専攻（博士後期課程）

【ディプロマ・ポリシー】

本課程では、学生が修了時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 宗教学を核とする人文学の高度な専門知識もしくは学際的知識を基礎に、実践宗教学における独立した研究者として学術に貢献できる力
2. 研究対象となる実践現場の思想的宗教的基盤および社会背景に深い理解を持ち、実践的課題探求や後進の育成に教育者・実践者として貢献できる力
3. 高度な実践的課題探求並びに学術に貢献できる高い水準と独創性を備えた博士論文の完成

【カリキュラム・ポリシー】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 「実践宗教学コロキウムⅠ」「実践宗教学コロキウムⅡ」を必修科目として配置し、学術研究に不可欠な建設的批判を行う能力と研究倫理を身につけ、研究基礎力を養う。
2. 学生の多様な目的意識と学問的関心に対応するため、複数の領域から自己選択できる特殊研究科目群

を配置し、その履修を通じて研究分野について研鑽を深め、高度な死生学的課題に係る知識を身につける。ケア実践力強化を必要とする学生は、現場実習を含む科目の履修を通じて、臨床実践力・指導力を養う。

3. 個別の課題に応じた研究指導により研究応用力ならびに表現力を身に付け、研究計画審査を経て、研究者として求められる高度な専門性と独創性のある研究力ならびに教育者として求められる確かな教育能力を身につける。

4. 科目履修および研究指導をふまえ、予備論文の審査を経て、実践的視野を備えた独創的で主体的な研究計画のもと、博士論文の執筆をさせる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 本研究科博士前期課程もしくはこれに相当する課程において修士の学位を取得した者、同等の知識ならびに研究の潜在力を有する者、専門領域において深い実践活動を積んだ者
2. 現代社会で生じるさまざまな問題に対して、宗教・文化・倫理・思想的伝統を踏まえて対応する知見および感性を有する者
3. 人文学とスピリチュアルケアの実践を土台として、医療やケアの諸現場もしくは地域社会の実践的・臨床的な問題に関わる関心を持つ者

4. 総合人間科学研究科

〔教育研究上の目的及び人材養成の目的〕

人間の尊厳を基盤とし、科学の知、臨床の知、政策・運営の知にかかわる学際的教育・研究を行い、理論と実践・臨床を両輪として社会に貢献しうる人材を育成する。前期課程では、実践・臨床の場で活躍できる高度専門職業人及びこれらの場を視野にいたした研究者の養成を目指し、後期課程では、実践・臨床的知見を踏まえ学問的に貢献しうる人材育成を目指す。

教育学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、教育学の領域における幅広い学識と基礎的研究スキルを身につけ、人間の尊厳を守りつつ、教育を通じて現代社会の課題解決に取り組むことができる人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 社会の様々な事象についての情報収集力
2. 柔軟で多角的な思考力・分析力
3. 他者への共感と多様な集団との協働によって生み出す創造力

4. 問題解決のための実行力
5. 研究を適切に実行し、その成果を学術論文としてまとめる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 博士前期課程では、講義・演習・研究指導を組み合わせたカリキュラムを作成している。「講義」では、教育学の当該領域（教育哲学、教育史、教育社会学、国際教育学など）における主要テーマについて理解する。「演習」では、特定トピックについての議論による理解の深化や、調査研究スキルの獲得を目指す。また、自研究科内の他専攻開設科目や、8単位まで他研究科開設の科目を履修することも出来る。これらの科目を受講することにより、社会の様々な事象に関する情報収集力、そして幅広い学識と柔軟かつ多角的な思考力・分析力を身につける。
2. 本課程では、英語による科目を開設し、他研究科とのクロス・リスティング、国連大学の委託聴講制度等を活用することで、学びの場における多様性を確保する。さらに、国内外でフィールド体験・研修を実施する。留学で卒業のための単位を一定数取得することもできる。これらにより、他者への共感力と創造性、そして問題解決のための実行力を磨く。
3. 課程履修期間中は、指導教員および必要に応じて複数の教員から個別に指導を受けることで、研究能力を向上させる。学生は、2年次の春学期に研究概要を提出し、中間発表会において口頭で説明する。教育学専攻の所属教員および他の大学院生から研究内容についてのフィードバックを得ることで、研究論文の質を高める。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 人間の尊厳を尊重する姿勢をもち、人の成長や学びを支える教育、ならびにそれを取りまく社会との関係性に対して、強い関心を持つ学生
2. 研究を遂行していく上で必要な基礎学力を有し、学ぶことへの意欲が高い学生。「基礎学力」には、情報を幅広いソースから収集・分析し、自身の考えや研究成果を広く伝えるための外国語運用能力を含む。以上の関心と資質を有する学生であれば、学部での専攻は問わない。
3. また、社会人入試を実施して、現職教員や社会経験を有する人への教育・研究支援を行うほか、留学生の受け入れも積極的に行うなど、多様な人材が各人の経験を生かして共に学びあう研究環境の中で、他者との協調や連携を図ることのできる学生

教育学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、研究者として教育学の領域における幅広い学識と高度な研究スキルを身につけ、人間の尊厳を守りつつ、教育を通じて現代社会の課題解決にリーダーシップを発揮して取り組むことができる人

材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 社会の様々な事象についての情報収集力
2. 柔軟で多角的な思考力・分析力
3. 他者への共感と多様な集団との協働によって生み出す創造力
4. 問題解決にリーダーシップを発揮して取り組む実行力
5. 自立的に研究を遂行し、新たな知見を学術と政策・実践にもたす力
6. 研究成果を適切にまとめ広く社会に発信する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 本博士後期課程では、関連領域の講義・演習科目を開設する。これらの科目では、領域における基礎的事項を確認すると同時に、特定のトピックについて少人数クラスで議論を行い、その理解を深める。また、これらの科目履修により、研究実践スキルの向上、および自身の研究計画の精緻化を図る。
2. これらの科目に加えて、学生は、博士論文作成のための論文演習・研究指導科目を履修させる。課程履修期間を通じて、指導教員から博士論文執筆や研究成果の発信（学術誌への投稿、学会での口頭発表など）についての個別指導を受けさせる。
3. さらに、専任教員3名からなる指導委員会が設置され、修学期間中の研究指導を受けることが出来る。指導委員会のメンバーは、学生の研究課題や調査研究手法を考慮して構成される。この体制により、学生は、多様な角度から指導を受けながら、研究と博士論文の執筆を進めることが出来る。講義・演習科目の履修と研究指導を有機的に結び付けたこれらの学びにより、専門分野における情報収集・分析能力、および研究能力を獲得し、自立した研究者としての能力を身につけさせる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 人間の尊厳を尊重する姿勢をもち、人の成長や学びを支える教育ならびにそれを取りまく社会との関係性に対して、強い関心を持つ学生
2. 博士課程での研究を遂行していく上で必要な基礎的能力を有し、学ぶことへの意欲が高い学生
3. 「基礎的能力」には、情報を幅広いソースから収集・分析し、自身の考えや研究成果を広く社会に伝えるための外国語運用能力を含む。以上の関心と資質を有する学生であれば、本専攻博士前期課程を修了した者に限らず、国内の他大学院ならびに留学生を含めた海外の大学院博士前期課程（修士課程）の修了者を受け入れる。

心理学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、キリスト教ヒューマニズムに基づく人間の尊厳を守る社会を実現するために、心理学の知識の理解、研究方法の修得や実践を通し、学修の成果を研究活動として結実させ、心理学の専門家・専門職として社会に貢献できる人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 基礎心理学コース、臨床心理学コースの両コース共に、心の働きの実証的理解、心と行動の普遍性およびその多様性と可塑性の理解、心理学の社会的役割の理解
2. 心を生み出す仕組み（機構）と心理学の諸理論の正確な理解を踏まえて、人間についてより深く理解する力
3. 専門職業人として、本学の建学の理念である「隣人性」「国際性」を達成するために、基礎分野および臨床分野（医療、教育、福祉等）で活かすことのできる知識や技術、それを的確に伝える力
4. 多様な他分野、多職種との連携が可能となる広い知見
5. 自身の専門領域を深め、学会などでの発表を踏まえ、修士論文としてその成果をまとめるとともに、広く発信する力

【カリキュラム・ポリシー】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、心と行動の仕組みとその働きを理解し、心理学の専門的知識と技能を用いて、広く社会に貢献できる人を育てるために、臨床心理学コース、基礎心理学コースの2つのコースを設け、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 心理学の専門家としての基盤を作るために、1年次、2年次に、研究法に関する科目、各心理学の専門領域に関する科目を開設する。
2. 学修の成果を研究活動として結実させるために、1年次、2年次の2年間を通して、論文演習を開設する。
3. 臨床心理学コースにおいては、臨床心理士として必要とされるさまざまな知識や技能を具体的な臨床事例に即して得、実習や実践を通してより一層深められるよう必修科目を開設する。
4. 学部生の指導やチューターをする中で、自分自身の学びを深めることができる実習科目を開設する。

【アドミッション・ポリシー】

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 心理学に関する基礎から応用分野での高度な専門的知識と、実証的データ収集、解析技能、臨床的な実践的知識や技能を身につけることを目的としている。このための心理学の専門家として、自律的に研究を遂行する意欲と能力を備えた学生
2. 人間の尊厳を尊重し、他者に対する暖かなまなざしをもつと同時に、事象を論理的かつ客観的に分析できるセンスをもつ学生
3. 将来、さまざまな実践の場で他分野の専門家と対等に議論するために、知識修得の意欲をもち、柔軟に考え、多様な専門家と協力できる学生

心理学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、キリスト教ヒューマニズムに基づく人間の尊厳を守る社会を実現するために、心理学の知識の理解、研究方法の修得や実践を通し、学修の成果を研究活動として結実させ、論文の形で問うことができるようにします。「心」を探求する専門的な知識と経験を、総合的視野に立って駆使し、研究者・教育者として社会に貢献できる人材の養成を目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 心理学の多様な分野での知見を深め、臨床的視点をもつ研究者、研究者の視点をもつ実践家となる力
2. 科学的視点を基盤にし、様々な場で対人支援を実践できる専門家としての能力
3. 自身の専門領域を深め、学会誌、国際学会などでの発表を踏まえ、博士論文としてその成果をまとめるとともに、広く発信する力
4. 多職種連携を必要とするがん医療の分野をはじめとする喫緊の課題解決に資する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、「心」を探求する専門的な知識と経験を、総合的視野に立って駆使し、研究者・教育者・臨床家として社会に貢献できるよう、心理学の基礎から応用にわたる研究法、高度な先端的知識を身につけるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 心理学の研究者・教育者・臨床家として必要な先端的知識、専門的スキルを修得し、それを様々な場で発信することができるように、1年次から3年次にかけて、講義科目と演習形式による論文演習を開設する。
2. 博士論文の構想発表までに、査読論文2本を書く。このためには、学会などの様々な機会を通して、自らの研究を発表し、他の研究者との研鑽をしていく。
3. 学部生、博士前期課程の学生に対する心理学研究法などのチューターを通して、心理学の知識やスキルをより深めるとともに、研究者・教育者・臨床家として、それを他者に伝えるためのスキルを得させる。
4. がん医療関連科目として4大学院連携（上智大学、東京慈恵会医科大学、昭和大学、星薬科大学）の連携授業を履修することを認める。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 心理学に関する基礎から応用分野での高度な専門的知識と、実証的データ収集、解析スキル、臨床的な実践的知識やスキルを身につけている学生
2. 将来、心理学の研究者、教育者、実践家として活躍できるような、人間の尊厳を尊重し、他者に対する暖かなまなざしをもつと同時に、事象を論理的かつ客観的に分析できるセンスをもつ学生
3. 心理学の高度な専門的知識や自らの研究の成果を、論文などの形でまとめ、それを他者に的確に伝え

ることのできる学生

社会学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、社会が直面する様々な変化やそれに付随して生じる社会問題の根源的なメカニズムを理解し、冷静な分析力と機敏な応用力を兼ね備えた人材の養成を目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 専門分野における高度な理論的及び経験的知識を理解する力
2. 社会変動や社会問題について社会学的な研究課題を設定する力
3. 社会学的な研究課題に対して適切な研究方法及び分析手法を提案する力
4. 自らの主張を論理的に整理して的確に伝え、修士論文としてまとめる力
5. 研究課題の達成を通じて現代世界における多様な価値の共生に資する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、社会現象のメカニズムを分析・理解する能力を獲得するために、社会学理論と社会調査法の基礎科目および現代社会の重要な諸側面を扱う幅広い専門科目を配置して、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 理論的及び経験的知識の修得のため必修科目である社会学理論及び専門科目を1年次春学期から配置する。
2. 社会学的研究課題を設定する能力の修得のため必修科目である社会学方法論及び関連専門科目を1年次春学期から配置する。
3. 社会調査法の知識と運用能力の修得のため必修科目である社会学方法論及び専門社会調査士科目を1年次秋学期から配置する。
4. 修士論文執筆と口頭報告の能力の修得のため2年次春学期から指導教員による論文演習及び合同研究報告会を配置する。
5. 研究を現実の社会問題に応用する能力を修得するため専門科目においてディスカッションや実習を実施するとともに、関連学会への参加を促進する。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、自らの関心を学問的に深め、実践の場で発信しようとする目的意識を有する学生
2. 社会学の知識を幅広く修得しようとする強い意欲と、社会現象に多角的に接近する柔軟な思考力を備える学生
3. 前期課程における専門教育を受ける上で必要となる知識と学力ならびに論理的思考力と表現力を有す

る学生

社会学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、社会が直面する様々な変化やそれに付随して生じる社会問題の根源的なメカニズムを理解し、研究者としての冷静な分析力と機敏な応用力を兼ね備え、また、高度な理論的知識や方法論的技術を駆使して研究論文をまとめる力量を備えた人材の養成を目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 専門分野における高度な理論的及び経験的知識を独自に整理し運用する力
2. 社会変動や社会問題について独創性を有する社会学的な研究課題を設定する力
3. 社会学的な研究課題に対して適切な研究方法及び分析手法を提案し、高度な水準でそれを実施する力
4. 自らの主張を論理的に展開して国内外に広く発信し、博士論文としてまとめる力
5. 研究を通じて現代世界の福祉と創造的進歩に資するような結論の提示または政策を提言する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、社会現象のメカニズムを高度な水準で分析・理解し研究論文を執筆する能力を獲得するために、社会学理論と社会調査法の科目および現代社会の重要な諸側面を扱う幅広い専門科目を配置し、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 博士論文執筆に必要となる高度な理論的及び経験的知識の修得のため専門科目を配置する。
2. 専門的研究課題を設定する能力の修得のため専門科目を配置する。
3. 高度な社会調査を自ら実施する能力の修得のため専門社会調査士科目及び関連専門科目を配置する。
4. 博士論文執筆と内外の学会での口頭報告の能力の修得のため指導教員による研究指導及び合同研究報告会を配置するとともに、関連学会での報告や学会誌への投稿を促進する。
5. 研究を政策的提言に応用する能力を高めるため学際的研究と関連学会での研究発表を促進する。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、自らの関心を高度な水準で学問的に深め、実践の場においても発信しようとする目的意識を有する学生
2. 社会学の知識を高度な水準で修得しようとする強い意欲と、社会現象に多角的に接近する柔軟な思考力を備える学生
3. 後期課程における専門教育を受ける上で必要となる社会学の知識ならびに論理的思考力と表現力を有する学生

社会福祉学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、人間の尊厳を尊重し、福祉社会の実現と創造的進歩に貢献できる人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 社会福祉における基本的理念、高度な専門知識と実践能力、研究能力
2. 福祉政策・運営管理と福祉臨床の両領域について幅広い知識を修得し、福祉社会を構築するうえでの実践能力
3. 理論と実践・臨床を統合することによって、現代社会における課題解決に向けた多角的な分析能力
4. 「研究者養成プログラム」では、福祉社会をデザインし作り出す実証研究能力を身につけ、学術雑誌や国際学会等で研究成果を発信し、学術論文としてまとめる力
5. 「高度福祉専門職養成プログラム」では、福祉臨床の知識・技術を身につけ、政策立案や臨床の現場で指導的役割を果たせる実践能力と、学術論文としてまとめる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、狭義の社会福祉を超えた新しい福祉社会の実現に貢献する人材育成のために、「研究者養成プログラム」と「高度福祉専門職養成プログラム」を用意し、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. コアカリキュラムの「社会福祉研究法基礎」、「福祉政策運営管理研究法基礎」、「福祉臨床研究法基礎」を通して、社会福祉学で求められる多角的な研究法を学ぶ。
2. 「福祉政策・運営管理系科目」と「福祉臨床系科目」を通して、社会福祉学で必要とされる幅広い領域を学ぶ。
3. 「社会福祉フィールドワーク」と「援助事例分析」「社会政策・経営事例分析」を通して、理論と実践の統合を行い、現状や課題を多角的に分析する力をつける。
4. 「研究者養成プログラム」では、コアカリキュラムにより研究法を深めるとともに、英語開設科目を通して英語による研究発信の方法・技術を学ぶ。
5. 「高度福祉専門職養成プログラム」では、おもに臨床や福祉各分野・課題に関する科目を通して福祉臨床の知識・技術を実践的に学ぶ。
6. 上記のカリキュラムおよび研究指導を通して修士論文をまとめ、その審査および最終試験に備える。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 社会福祉学のみならず保健医療、経済学、法学、社会学、心理学など他分野を学んできた学生
2. 「高度福祉専門職養成プログラム」では福祉や保健医療等の現場で高度な専門性を発揮し、リーダーとして活躍しようとする学生
3. 本学社会福祉学科や上智社会福祉専門学校において優秀な成績を収め、さらに社会福祉の勉学を深め研究法を身につけようとする学生

社会福祉学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、人間の尊厳を尊重し、福祉社会の実現と創造的進歩に、自立した研究者として貢献できる人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. （博士前期課程で身につけた）社会福祉における基本的理念、高度な専門知識と実践能力、研究能力をより高め、独創的な知見を生み出すことができる力
2. 福祉政策・運営管理と福祉臨床の両領域についての幅広い知識をさらに深め、福祉社会を構築するうえで必要となる高度な分析能力、実証研究能力
3. 学術雑誌への投稿、国際学会等での報告において研究成果を発信・議論し、博士論文としてまとめる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、新しい福祉社会の実現に向けて国際的にも貢献できる人材育成のために、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 指導教員による研究指導のもと、国内外の先行研究レビューや調査実施等により、研究のテーマ・方法を絞り込み研究を進めていく。
2. 福祉政策・運営管理系および福祉臨床系のコース・ワークを通して、社会福祉学の研究を進めるうえで求められる多角的な視点や研究方法を学ぶ。
3. 英語開設科目を通して英語による研究の発信や議論についての方法・技術を学ぶ。
4. 上記の研究指導およびカリキュラム、さらにコースワークの研究法特殊講義を通して博士学位申請論文をまとめ、その審査および最終試験に備える。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 社会福祉学のみならず保健医療、経済学、法学、社会学、心理学など他分野で博士前期課程を修了した学生
2. 本専攻博士前期課程において優秀な成績を収め、さらに研究を深め社会に貢献しようとする意欲的な学生

看護学専攻（修士課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、人間に対するケアリングをディシプリンとして捉えるとともに、実践に生かせる研究力な

らびに指導力を兼ね備えた人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 研究のプロセスを適切に踏み、その成果を的確な構成、論理的な展開をもって論文としてまとめる力
2. 人々の発達・健康レベルに応じた最善の健康支援をめざした実践能力と研究能力
3. 臨床現場で指導的役割を果たすことのできる実践能力
4. 学際的、総合的な視野をもって国内外で活動する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、国内外の医療健康問題の動向における重要課題に鑑み、「共生支援」のキーワードにもとづいて、良質のケアリングにかかわる発展的かつ実践的な研究を行うために、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 看護研究に関する基礎力を充実させる科目を開設する。
2. ケアリングについて考究する科目を開設する。
3. 自己が研究を通して深めたい専門看護学に関する科目を開設する。
4. 自己が研究を通して深めたい専門看護学を支持する科目を開設する。
5. 修士論文執筆とプレゼンテーション能力の修得のため1年次春学期から指導教員による演習を行い、研究計画検討会、修士論文発表会を配置する。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 看護の様々な現場で実践を行い、高い実践能力と職業倫理性をもつ学生。
2. 実践に役立つ看護学の研究を通じて、看護学の発展ならびに国内外の医療健康問題の解決に寄与したいという意欲を有する学生
3. 医療・看護における現象を論理的かつ客観的に分析できる柔軟な思考性をもつ学生

5. 法学研究科

法律学専攻

〔教育研究上の目的及び人材養成の目的〕

本専攻は法学・政治学の研究者の養成、並びに、この素養を身につけた社会人を送り出すことを目的とする。現代社会では、研究者は自分の専門領域に特化しているだけで足りるものでなく、社会で生起するさまざまな問題を論理的に再構成し、より高度な問題を処理できる実務能力を身につけていなければならない。社会人を積極的に受け入れ、研究者養成とともに、法学・政治学の素養を身につけた人材の養成を目指す。

法律学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、法学・政治学研究者の養成と高度の専門的能力を有する職業人および人間性豊かな法律家を養成し、社会に送り出すために、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 専攻分野に関する高度な専門知識を修得し、使いこなす能力
2. 研究課題の問題状況を正確に理解した上で、関係資料を幅広く分析し、独創性・構成力等の点で、ある程度の研究能力を示す修士論文またはリサーチペーパーを作成する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、法律学の諸分野における実定法の研究教育や基礎法・国際法・政治学・比較法などや、グローバル化や環境問題についても研究教育をおこなうよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 学部で修得した法学・政治学全般の基礎知識の深化を図り、専攻科目の研究への移行を助け、高度な法的能力および政治の分析力の涵養を目指し、また、社会人については、社会で身につけた知識・経験を専攻科目と関連づけて、専門的視点および分析力の深化を目指す専門科目を置く。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 学部での法学・政治学に関する基礎的能力を有することを前提して、より専門的な研究能力を身につけ、将来専門家としての職業に就くことを希望する意欲のある学生

法律学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、法学・政治学研究者の養成と高度の専門的能力を有する職業人および人間性豊かな法律家を養成し、社会に送り出すために、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 専攻分野に関する深い学識と高度な分析力を備え、その学識と分析力を基盤として独創的な課題を設定し、自らそれを解決・展開する能力
2. 研究課題についての学界の到達点を踏まえて、独創的な視点に基づいて高度の分析力・構成力を発揮し、専門的研究として評価しうる博士論文を作成する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、法律学の諸分野における実定法の研究教育や基礎法・国際法・政治学・比較法などや、グローバル化や環境問題についても研究教育をおこなうよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 研究者養成を主な目的としながら、既存の法秩序や政治の枠を超えて生起する現代の諸問題の処理能力を養うことに重点を置き、また、社会で生起するさまざまな問題を論理的に再構成し、より高度な問題を処理できる実務能力を涵養する専門科目を置く。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 博士前期課程での法学・政治学に関する基礎的能力を有することを前提して、より専門的な研究能力を身につけ、将来専門家としての職業に就くことを希望する意欲のある学生

法曹養成専攻（法科大学院）

〔教育研究上の目的及び人材養成の目的〕

将来法曹（裁判官・検察官・弁護士）の専門家として活躍する人材を養成する。キリスト教ヒューマニズムに基づく人間教育を、法曹倫理、隣接科学、基礎法学科目にも充実させることで、広い視野で社会に貢献する法律家を養成することを主眼とするが、国際問題や環境法政策に対して多角的なアプローチをすることにより、21世紀に必要とされる法曹を養成することも本専攻の特長とする。

〔ディプロマ・ポリシー〕

教育目標

○上智大学法学研究科法曹養成専攻（法科大学院）は、「他者のために、他者ととともに」という上智大学の教育精神に則り、さまざまな社会の課題に法の専門家として取り組む意欲をもった、高度な専門知識と実務能力、及び世界の人々とともに歩む「隣人性」と「国際性」を兼ね備えた法曹を養成するための教育を目指します。

上記の教育目標を達成するために、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を以下のとおり定めます。

○以下の要件を充足していること

- (1)各学年において、所定の科目の単位を含む所定の単位数を修得し、所定の成績基準を満たすとともに、各学年（最終学年を除く）の進級試験に合格していること
- (2)本専攻に所定の年限在籍し、所定の科目群から定められた科目を含む所定の単位数を修得したうえで前項の成績基準を満たしていること

○以下の知識、技能及び態度を身につけていること

- (1)裁判官、検察官、弁護士をはじめとする法律家として社会で幅広く活躍できる専門的知識、思考力および技能を身につけていること
- (2)高い倫理感と、専門家としての強い責任感を備えていること
- (3)専門的知識に加え、幅広い知的好奇心とそれを生かすコミュニケーション能力を備え、高い実務

対応能力を有する法律家として活躍する力を身につけていること

(4) 先端的な法律問題についての知見を有し、問題解決に繋がる応用力を有すること

(5) キリスト教ヒューマニズムを基盤として、人類普遍の価値である、人権の尊重、国際的協調、環境問題解決への関心を持ち、これら課題について理解し、問題解決についての専門的な知識を有し、議論をする力を身につけるとともに、物事の本質を見極めることができる智を備えること

【カリキュラム・ポリシー】

本専攻では、教育目標を実現し、学生が修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で示された知識、技能及び態度を身につけるために、以下のとおり教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定めます。

○教育課程編成の考え方

・以下の5つの柱に即してカリキュラムを構築します

(1) 法律基本科目については、基礎、応用、演習の3つのステップで段階的な履修を可能とするカリキュラムを設定するとともに、段階に応じて法的な問題を解決する能力を涵養する科目を配置します。

① 1年次においては、法律基本科目の基礎科目を配置して、7科目の基本的知識の修得を図ります。また、法律学の学修経験を有しない学生がいることに鑑みて、法律学の学習および法的文書の作成に関する導入的な授業科目を置きます。

② 2年次においては、法律基本科目の応用科目を配置し、基本的知識を前提として、法的な紛争、論点について、法の解釈と法的紛争における事実関係の理解の能力の涵養を図ります。また、長文の事例問題等を用いつつ、各科目についてのより深い理解と法的紛争解決に向けた力をつけることを目的とする演習科目を配置します。既修者は2年次において行政法基礎を履修します。

③ 3年次においては、公法、民事法、刑事法の各分野の総仕上げとして総合科目を配置します。また、引き続き文書作成力の向上を図る演習科目を置きます。

(2) 理論と実務の架橋を目指し、多様な実務家との協働のもとで、理論教育で得た知識を実践に活かす能力が段階的に涵養されるよう、実務科目を設置します。未修者には、法的な文書作成の基本を学ぶ科目を導入教育として配置します。

(3) 法曹としての強い責任感と高い倫理観が備わるよう、法曹倫理を必修科目とします。

(4) 法の理念、法が社会で果たす役割についての理解を深める科目を設けます。

(5) 先端的な法領域を含む、多様な法分野についての科目を選択科目として設けます。なかでも本学の建学の理念、教育精神に立脚した国際法分野、環境法分野に関する先端的な科目を充実させます。

○学修内容及び学修方法

・上記の考え方に沿って、具体的な学習過程の設定、学修方法の選択を行うにあたっては、以下の方針に則って行います。

(1) 学修の進行は、理論的な性格の強い科目から実務的な性格の強い科目に移行するように設定します。

理論的な科目については、大きな流れとして法律基本科目からスタートし、隣接科目、展開・先端科目へと比重が移るように科目を配置します。

(2)理論科目については、「基礎」、「応用」、「演習」を重層的に配置するとともに、基礎、応用段階においても、事例を用いた法的问题を解決する能力を養う科目を設置します。

(3)実務科目についても、基礎的な科目から実践的な科目に比重が移行するように科目を設定します。

(4)学修方法は科目の特性により、講義、演習、実習などのさまざまな形式をとりますが、少人数で双方向・多方向性な討議を重視します。ただし、法律基本科目のうち「基礎」となる学修においては、基本的な知識を蓄積することに主眼を置きつつ、一定の双方向性を確保することを基本とします。

○学修成果の評価方法

・各科目の単位認定は、各科目が設定した到達目標に到達し、次のステップに進めるかどうかを絶対基準で評価し合否を決定します。法律基本科目の基礎科目については各分野の基礎的な知識を獲得していること、応用科目については各分野における議論を理解し、事例として示された紛争に法規定、理論を適切に適用できることが求められます。法律基本科目の演習科目については、上記に加えて、論述問題を読み解き適切な解答文書を作成できるようになることが求められます。具体的な到達目標についてはシラバスに記載されます。他の科目群についても、それぞれの科目が設定し、シラバスに記載された到達目標に到達しているか否かが基準となります。

・到達目標に到達したと認められる学生については、本専攻の定める成績評価基準に従って相対的に評価します。

・成績評価方法は、法律基本科目の基礎科目、応用科目では、原則として論述式または記述式の筆記試験を主とします。法律基本科目のうち演習科目、総合科目については、課題や議論への参加を中心に成績評価を行うことがあります。基礎法学・隣接科目、展開・先端科目、実習を伴わない実務基礎科目については、各科目の特性に応じて、シラバスの記載に基づき筆記試験、レポート、授業参加等の方法で評価します。

・実習を要する科目など、一部の科目については上記と異なる評価方法をとることがあります。この場合も、設定された到達目標に到達したかどうかを絶対基準で評価して合否を決定することには変わりありません。

【アドミッション・ポリシー】

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 「法務博士」取得後に、法律家として、社会に貢献する明確なヴィジョンと意欲のある学生
2. 「他者のために、他者とともに」(Men and Women for Others with Others) という本学の教育理念を理解し、キリスト教ヒューマニズムを基礎に持った法律家として社会に貢献できる学生
3. 上智の校章、校歌にもある「Lux Veritatis (真理の光)」の理念、要請に応じられる、勢いにおもねらない、物事の本質を見極めることができる智を備えた真の法律家になる意思と素養を持った学生

6. 経済学研究科

〔教育研究上の目的及び人材養成の目的〕

経済学・経営学に関する深い学識を基礎に、実際的な応用能力を有する 職業専門家、深い洞察力を備えた高い水準の研究者を育成する。前期課程修了者には、専門知識を活かして、研究やコンサルティングに従事したり、企業実務の第一線で活躍する高度専門職業人となることが期待される。後期課程修了者には、学術・研究機関において教育・研究に従事することが期待される。

経済学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 経済を、理論的、実証的、歴史的に分析する力
2. 現代社会が直面する事象や問題について経済学の知識を活用し論理的に思考する力
3. データ処理・分析を通じてデータに潜む情報を表現する力
4. 研究を適切に実行し、その成果を学術論文として完成させる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、1年次のコースワークで経済学の理論や分析手法を修得し、2年次では指導・審査グループの助言のもとでテーマを設定し学位論文を作成するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 1年次コースワークでは、基礎科目である「マイクロ経済学特講Ⅰ」「マクロ経済学特講Ⅰ」「計量経済学特講Ⅰ」および、「論文演習Ⅰ（基礎）」を必修科目とし、選択科目では各自の研究関心に応じて応用経済学の科目を開設する。
2. 「マイクロ経済学特講Ⅰ」「マクロ経済学特講Ⅰ」では、経済学の理論や分析手法を学び、「計量経済学特講Ⅰ」では、数量的分析手法を修得する。また、「論文演習Ⅰ（基礎）」や「選択科目」では、最新の研究動向を参考にしながら、現代社会が直面する事象や課題をどのような経済学的視点から分析できるのかを学ばせる。
3. 2年次では、論文テーマの設定や考察・分析枠組みの選択等について、指導教員を中心とした3人の教員から構成される審査・指導グループにより学位論文作成を指導する。
4. 学位論文審査では、研究課題を経済学の適切な枠組みにより分析し、学術的な位置づけを明確にしながらか論理的に記述できているかを問う。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 社会の事象や問題について、経済学の視点から考察・分析することに関心をもっている学生

2. ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学について学部卒業レベルの基本的な知識を修得している学生
3. 学部卒業レベルの基礎的な英語力を有している学生
4. 社会人としての経験を通じて経済の事象や問題への深い関心をもち、経済学の分析手法を修得してキャリア形成等に役立てる意欲を持つ学生

経済学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自ら選んだ専攻分野で専門家としての能力を深め、高める能力
2. 学術性の高い研究課題を設定し、経済学の適切な枠組みを用いて考察・分析を行う力
3. 自立した研究者として独自の研究を遂行し、研究で得た知見や洞察を用いて世界や社会の発展に貢献する力
4. 研究を適切に実行し、その成果を学術論文として完成させ、発信する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として、コースワークで経済学の高度な理論や分析手法を修得し、「研究指導」により博士論文作成の指導を受け、学内セミナーでの研究報告により学位論文の完成度を高めるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 「研究指導」を必修科目とし、博士論文のテーマ設定や分析手法の選択等について指導を行う。
2. コースワークとして理論経済学、応用経済学、経済統計の分野の科目を選択必修科目として開講する。
3. 学内セミナーで研究報告し、指導教員をはじめ他の教員からも助言を受け、論文の完成度を高める。
4. 研究成果の一部が査読付き専門雑誌へ掲載されるように指導を行う。
5. 学位論文審査では、独自の学術的価値を有するか、自立した研究者として研究遂行能力があるか等を問う。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 経済学の研究・教育や経済学を応用した調査・予測等の業務に従事する意欲を持つ学生
2. 博士前期課程レベルの経済学の学問知識を修得している学生

経営学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし

論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 経営学、マーケティング論、会計学あるいはこれらの周辺領域から選択された少なくとも一つの専門分野を深く理解する力
2. 本学の精神に基づき、世界の人々の生活向上や世界の企業のさらなる繁栄に寄与する独創的、先進的研究を行う力
3. 研究を適切に実行し、その成果を学術論文として完成させる力

【カリキュラム・ポリシー】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、本学の精神を基礎として個々人の能力に沿い、個性を活かした成長を目指すよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 経営学、マーケティング論、会計学の各分野における標準的科目を配置する。
2. 少人数クラスにおいて、履修している学生の研究テーマや理解度を勘案しながら講義する。
3. 講義内容は、理論構築の基礎となる調査研究方法論（統計や社会調査技法）から、基礎的理論、現実の経営現象への応用まで広範囲にわたり、基礎と応用のバランスを考慮する。
4. 伝統的・標準的な文献講読タイプだけでなく、現実の事例に基づくケース・ディスカッション、データ分析の実習など多様な講義形式を科目特性や講義内容に応じて開設する。
5. 論文テーマの設定、その分析枠組みの選択、分析・考察および論文作成の各段階において、指導教員を中心とした3人の教員から構成される審査・指導グループが指導する。

【アドミッション・ポリシー】

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 経営学、マーケティング論、会計学の中の少なくとも一つについて学部卒業レベルの基本的な知識を修得している学生
2. 学部卒業レベルの基礎的な英語力を有している学生
3. 社会人として企業での実務経験を有し、それを背景とした研究計画と勉学意欲を持つ学生

経営学専攻（博士後期課程）

【ディプロマ・ポリシー】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 学術性の高い研究課題を設定し、経営学、マーケティング論、会計学の適切な枠組みを用いて考察・分析を行う力
2. 自立した研究者として独自の研究を遂行し、研究で得た知見や洞察を用いて世界や社会の発展に貢献する力
3. 研究を適切に実行し、その成果を学術論文として完成させ、発信する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、経営学、マーケティング論、会計学あるいはこれらの周辺領域から選択された研究課題に対する知見の深まりとその分析能力の高度化を目指すよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 指導教員による研究指導を通じて、理論を基礎とする現象分析や理論の現実への応用を可能とする高度な研究能力を涵養する。
2. 会計学、マーケティング論、経営学の分野の科目を開設する。
3. 国内あるいは海外の学会での発表、国内外の学術雑誌への論文投稿を推奨する。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 経営学、マーケティング論、会計学の中の少なくとも一つについて博士前期課程レベルの知識を修得している学生
2. 研究課題を適切な枠組みを用いて分析し、学術的な位置づけを明確にしながら論理的に記述できる学生

7. 言語科学研究科

〔教育研究上の目的及び人材養成の目的〕

理論言語学、個別言語学、及び応用言語学に関して国際的視野で独創的研究を行える研究者を養成する。また、言語聴覚障害学の基礎および臨床における研究者を養成し、さらに、英語による授業を通じて、英語教育に携わる教師を養成する。理論と実践が伴った国内外で活躍できる日本語教師も養成する。

言語学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、言語という人間の最も根本を成す能力を探求することにより、本学の設立目的及び使命を果たそうとする人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 幅広い言語学の分野から自らの専門領域を確立させるため、初年度より各々の分野で所定の科目履修をすることにより得た、言語研究の現状理解と方法論
2. 解決すべき問題を研究課題という適切な形式で問う力
3. 問題解決のために最も適切なデータ収集、および分析を行い、意味のある解を見つけ出す力
4. 言語学の基礎概念と方法論を広い視野に立って身につけ、学究的な思考方法を学び、特定の専門領域を究明する力

5. 結果の意味づけができ、専門性を活かして社会に貢献する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、言語を学術的に深く考察するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています

1. 専門の如何にかかわらず言語に関する基礎的な知識を修得する。そのために各コースにおいては以下の科目を必修科目と指定しており、できる限り1年目で履修させる。1) 言語学一般：音声学・音韻論基礎、統辞論基礎、2) 言語聴覚研究：言語聴覚障害学特論、言語聴覚障害研究法B（実験計画法）、言語聴覚障害研究法D（文献講読）、3) 英語教授法：Introduction to TEFL in Japan、Second Language Acquisition、Introduction to Linguistics、4) 日本語教育学：日本語教育文法I、第二言語習得I、言語・文化・社会、日本語教授法概論。
2. 英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、ポルトガル語、日本語の7言語の音声、音韻、統辞法、意味、文体、歴史等に関する科目を設ける。
3. 上記の必修科目および他選択科目を履修することにより、各コースにおいて専門的なテーマを追求するために必須となる理論的知識、理論を応用する能力、問題解決能力、批判的思考能力、適切なデータを収集分析解釈する能力、個々のデータから一般化し理論を構築する能力を修得させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 言語に関する次のいずれかの分野に学術的な関心をもっている学生。理論言語学、個別言語学（英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、ポルトガル語、日本語）、応用言語学、言語聴覚障害学、英語教授法、日本語教育学。言語聴覚障害学専攻希望の場合には言語聴覚士の国家試験受験資格取得を目標としてもよい。
2. 当該専門分野における学識および教養を高める意思があり、独自の研究成果を挙げ、社会に還元する意思をもっている学生
3. 理論言語学、個別言語学、応用言語学、英語教授法を専攻する学生は修士論文を外国語（日本語教育学では外国人学生の場合、外国語としての日本語）で作成することが要請されるので、この要件で修士論文を完成するに足る外国語能力を有している学生

言語学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、言語という人間の最も根本を成す能力を深くかつ広く探求することにより、本学の設立目的及び使命を果たそうとする人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 博士前期課程で身につけた専門領域での方法論と知識をもとに、オリジナリティのある研究を行い論

文にまとめる力

2. 独力で高度の研究を遂行することができる学術的能力
3. 言語学および関連諸科学に関する高度に専門的な理論および方法論に熟達した自立した研究者として、国際的なレベルで認められるような学術論文を完成させる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、言語を学術的に深く考察するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 音声学・音韻論を含む理論言語学、言語聴覚障害学、応用言語学のうちから特定のテーマを選び、それについて特定の教授の個別面談に基づいた論文指導を受けさせる。
2. 各自の専門分野の研究を深化させると同時に、関連分野の知見も取り入れ、専門的教養・学識を高めて独創的な研究を行わせる。
3. 入学後2年次に資格試験を受け合格し、さらに2編の論文を査読付きの学術雑誌に掲載することを必須とする。
4. 主として指導教員から研究指導を受け、必要とされた言語学専攻で開設されている科目を履修させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 博士前期課程での研究にもとづき、博士論文として研究する方向性を明確に有している学生
2. 各自の専門分野の研究を深化させると同時に、関連分野の知見も取り入れ、専門的教養・学識を高めて独創的な研究を行う学生
3. 学会発表や学術雑誌に投稿し、言語運用能力も含め、自力で研究を遂行する実力を身につけ、在学期間中に学位取得を志す学生

8. グローバル・スタディーズ研究科

〔教育研究上の目的及び人材養成の目的〕

国際関係の諸側面とそれらをめぐる諸問題を多角的に研究する国際関係論、アジア、中東、アフリカ、ヨーロッパ、ラテンアメリカ等の内在的な理解を重視する地域研究、グローバル・イシューに多面的にアプローチするグローバル社会専攻、「国際協力」に関して高度で包括的な理解を深める国際協力学専攻のそれぞれの方法論を活かし、相互に関連してグローバル化する現代世界を総合的に理解することのできる専門研究者および高度専門職業人を育成する。

国際関係論専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、世界平和と世界正義問題に積極的に取り組み、戦争を防止し、多様で自由な国際社会を築けるような問題関心を持ち、今日の国際社会が直面する諸問題の解決に積極的に貢献できるような研究者や専門家を養成することを目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 安全保障・紛争、貧困・開発、移民・難民、国際協力の在り方など国際社会が直面する諸問題に関する問題意識が明確かつテーマ設定が適切で、国際関係論およびその関連領域の知識の向上に寄与する力
2. 国際関係論およびその関連領域の知識を理解し、現代の国際関係の事象またはグローバル・イシューを鋭利な問題意識と批判的精神で分析し、問題解決に向けて提言する力
3. 地球環境・国際社会について幅広い問題関心を持ち、国際関係の理解に、国際政治学、国際経済学、国際社会学・比較社会学、国際協力論といった学際的な視点と、国家や社会や地域に関する比較の視点からアプローチする力
4. 先行研究をふまえ、的確な構成、緻密な分析、明快、論理的で説得力のある学術論文を書く力

【カリキュラム・ポリシー】

本課程では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的とした二つの科目群により、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 本課程では、学際的視点と比較の視点を修得すべく、国際政治・比較政治系と国際社会・国際協力系の履修群を二本柱とし、各群から一定の単位を修得し、国際関係論を体系的かつ幅広く研究することを目指している。
2. 国際政治・比較政治系では、国際関係論、国際政治学、比較政治学、平和研究、安全保障など国民国家の安全保障に関連する研究を行う。国際社会・国際協力系では国際経済学、国際社会学・比較社会学、国際協力論など国民国家の枠を超えて、人の安全保障に関連する研究を行う。
3. 国際関係論の理論や先行研究理解を踏まえ、独自の問題関心にしたいがい、国際社会が直面する諸問題に関する問題意識が明確かつテーマ設定が適切で、国際関係論およびその関連領域の知識の向上に寄与できるような修士論文の作成に取り組ませる。
4. 修士課程での研究の発展を促すために、1人の学生を主指導教員と副指導教員の複数指導体制によって研究指導を行う。複数の教員の指導によって幅広い知識と視野を得て、学生が独自の研究を円滑に進めることが出来る指導体制とする。

【アドミッション・ポリシー】

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 地球環境の保全と人々の安全を実現しようとする確固たる研究関心、ならびにグローバルな貢献への強い意志を持つ学生
2. 国際関係の諸問題を多角的に研究することを目標とし、そのための研究能力が十分にあると認められる学生
3. 明確な問題意識・テーマ設定を持ち、自主的に国際関係論およびその関連領域の研究を持続し発展させられる意見と能力を持つ学生

国際関係論専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、世界における平和と正義の問題に積極的に取り組み、戦争を防止し、多様で自由なグローバル社会を築けるような問題関心を持ち、今日の国際社会が直面する諸問題の解決に積極的に貢献できるような研究者や専門家を養成することを目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 問題意識が明確で、テーマ設定が適切であり、対象分野に関する新しい知見の発見、ないしは既存の知見に対する新しい解釈が提示する力
2. 自ら選んだ専攻分野における独創的かつ先端的な研究であり、自立的研究者として研究を遂行することができる能力
3. 論文の主要部分が学術雑誌などに出版、あるいは提出されている能力
4. 専門領域での方法論と先行研究をふまえ、的確な構成、緻密な分析、明快、論理的で説得力とオリジナリティのある学術論文を書く力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、個別研究の独創性と学術的貢献についての認識を深め、学術上の研究成果をあげるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 指導教員と作成した独自のカリキュラムによって研究を進め、学会での発表や学術誌への投稿を行う。そのことで専門的な知識をえるだけでなく、高度な独創性をもった独自の研究を深めていく。
2. 本課程では、学際的な研究を遂行できるように複数の専門領域を学ぶことを学生に期待しており、博士論文の第一段階は、国際関係論で開設されている二科目を選択して受験する「博士論文資格試験」に合格することにより、この試験を経ることによって、複数の専門科目に関する幅広い知識と視野を得ることを目指す。
3. 博士論文の第二段階は、「博士論文計画書」を作成する。指導教員の指導によって独自に計画書の作成を進め学会での報告や学会誌への投稿を行うが、それらの研究成果に基づく具体的で体系的な博士論文の執筆計画を提出し審査される。「博士論文計画書」によって、博士論文作成は最終執筆の段階に至る。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. グローバル社会、グローバル政治、グローバル経済の諸問題の研究をとおして、今日の国際社会が直面する諸問題の解決に積極的に貢献できると期待しうる研究能力と学識を持つ学生
2. 1をもとに優秀な博士論文を執筆し、博士号を取得することを志す学生
3. 学会などで研究発表を行い学術誌、学会誌に論文を投稿し、自らの研究だけでなくその領域においてリーダーシップが発揮できる学生

地域研究専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、現場の視点を重視した地域立脚型のアプローチに基づき、歴史的文化的背景に配慮しながら、グローバル・イシューの原点解明と解決をめざすフィールドワーカー養成を目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 東アジア、東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、ヨーロッパ、ラテンアメリカの各地域の言語を用い、フィールドワークに基づいた方法論を確立する力
2. 国単位ではない地域社会からの発想、及び複数の学問による共同研究によって既存の学問ではとらえきれない問題へ挑み、分析・理解する力
3. グローバルな諸現象の解明に地域の視点とアプローチから学術的・社会的に貢献し、次世代地域研究者としてグローバルな市民社会とローカルな多様性を支える力
4. 明確な問題意識をもち、十分な先行研究を行った上で、的確な論文構成と整合性のある論旨展開を備えた修士論文を仕上げる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーの実現を目的として、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 必修の基礎科目により、地域研究の基礎と多様で総合的な方法と地域立脚型の視点を修得させる。
2. 地域間比較科目により、研究対象とする地域及び主として用いる方法論の相対化を促し、また比較の視野を培うことによって個別研究の学術的貢献について客観的に把握する力をつける。
3. 地域研究専門科目により、研究対象に適切な方法論及び専攻研究成果を踏まえた、整合性のある論理展開が出来るように訓練する。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 東アジア、東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、ヨーロッパ、ラテンアメリカなど諸地域における個別的な諸現象・問題ならびにグローバルな諸問題を理解するために必要な基本的な文献を理解するための言語能力を有する学生
2. 社会的・学問的な探求心と向上心を持ち、特定の課題に対して論理的思考を重ねた論述ができ、かつ主体的に取り組む姿勢を有する学生
3. グローバルな市民社会と、ローカルな多様性を支えるために、実践的に社会に貢献できる専門家となることを志向する学生

地域研究専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、研究課題解明のための適切且つ独創的な地域へのアプローチと方法論に基づき、関連学問分野の発展に貢献する地域研究の高度な学術水準を満たすことを目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 今日の課題解決のための適切なアプローチを、学問上の貢献と合わせて開発・確立し、さらに研究課題の解明に必要な十分な言語能力を運用したうえで、フィールドワークを遂行し独自の資料入手と分析をする力
2. 将来の学際的な共同研究も視野に入れた、研究課題の設定及び学術的貢献の可能性を洞察する力
3. 博士前期課程で身につけた方法論や知識をもとに、自らの専門領域を深めるべく研究を進め、独自性があり、学術的社会的貢献が期待できる博士論文を仕上げる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーの実現を目的として、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. フィールドワークによる独創的な資料入手及びアプローチの開発を促すために、指導教員との個別論文指導を行う。
2. 指導教員及び専攻内で開設されている科目への積極的な参加を通じて、他分野、他地域の学生と幅広く議論する。
3. 博士論文提出資格試験により、言語能力、論理的思考も含めた学術水準の到達度を審査する。
4. 博士論文提出資格試験に合格したのち、博士論文計画書審査と博士論文計画セミナーの実施を経て博士論文完成へと導く

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 論理的思考に基づいた研究課題に取り組んだ実績がある学生
2. 研究課題解明に必要な資料入手と分析に必要な不可欠な言語能力を有する学生
3. 地域社会及び社会への貢献を、学問分野と実践の上から志向する学生

グローバル社会専攻（博士前期課程）

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. グローバル社会研究領域では、卓越した英語力・関連分野における学術業績・目的意識・文章による説明能力を備え、過去の指導教員を含め、重要な資格において指導にあたった人物からの強い推薦を受

けた学生

2. 国際経営開発学領域では、卓越した英語力・関連分野における学術業績・目的意識・文章による説明能力を備え、過去の指導教員を含め、重要な資格において指導にあたった人物からの強い推薦を受けた学生

3. 比較日本研究領域では、卓越した英語力及び日本語力・関連分野における学術業績・目的意識・文章による説明能力を備え、過去の指導教員を含め、重要な資格において指導にあたった人物からの強い推薦を受けた学生

ア. グローバル社会専攻 修士（グローバル社会研究）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たした者は、これらを身につけたものと認め、グローバル社会研究の学位を授与します。

1. 専門的知識、世界に通用する文化的対応能力
2. 修士論文およびグラデュエーション・プロジェクトは、文法的・語法的に正しく、明確かつ簡潔で適切な表現で書かれた文章であること、研究テーマの設定が明確に示され、適切な研究のもと説得力のある結論が導き出されていることを目指す。
3. グローバルな諸事象の研究のための基本的な概念を分析する能力
4. 国際的な組織、政府、NGO、マスメディア、教育機関その他の組織に十分に参画し、指導的な役割を果たす能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. グローバル社会研究の分野において、多国籍・多文化な社会において、英語または他の言語により活躍できる人材を育成する。
2. コースワークとして講義、演習、実習等を体系的に組み合わせ、リサーチワークとして指導教員からの指導を受けるカリキュラムを適切に設ける。
3. 論文コースとクレジットトラックコースを設け、教員と学生が緊密に連携することにより、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うカリキュラムを編成する。

イ. グローバル社会専攻 修士（国際経営開発学）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たした者は、これらを身につけたものと認め、国際経営開発学の学位を授与します。

1. 専門的知識、世界に通用する文化的対応能力
2. 修士論文およびグラデュエーション・プロジェクトは、文法的・語法的に正しく、明確かつ簡潔で適切な表現で書かれた文章であること、研究テーマの設定が明確に示され、適切な研究のもと

説得力のある結論が導き出されていることを目指す。

3. 特に日本とアジアに着目し、現代社会でのグローバルなビジネスおよび開発における多様な問題に対応するための分析をする能力
4. 先進国・発展途上国の経済状況を深く理解し、国際的な組織・政府・ビジネスで必要な専門的な経営管理能力

[カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 国際経営開発の分野において、多国籍・多文化な社会において、英語または他の言語により活躍できる人材を育成する。
2. コースワークとして講義、演習、実習等を体系的に組み合わせ、リサーチワークとして指導教員からの指導を受けるカリキュラムを適切に設ける。
3. 論文コースとクレジットトラックコースを設け、教員と学生が緊密に連携することにより、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うカリキュラムを編成する。

ウ. グローバル社会専攻 修士（比較日本研究）

[ディプロマ・ポリシー]

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たした者は、これらを身につけたものと認め、比較日本研究の学位を授与します。

1. 専門的知識、世界に通用する文化的対応能力
2. 修士論文およびグラデュエーション・プロジェクトは、文法的・語法的に正しく、明確かつ簡潔で適切な表現で書かれた文章であること、研究テーマの設定が明確に示され、適切な研究のもと説得力のある結論が導き出されていることを目指す。
3. 日本の歴史、文学、宗教、美術史、社会、文化について、総合的、学際的に理解する能力
4. 教育機関その他の、日本に関する専門的な知識を必要とする組織において必要な日本語力と学術的知識を身に付ける

[カリキュラム・ポリシー]

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 比較日本研究の分野において、多国籍・多文化な社会において、英語または他の言語により活躍できる人材を育成する。
2. コースワークとして講義、演習、実習等を体系的に組み合わせ、リサーチワークとして指導教員からの指導を受けるカリキュラムを適切に設ける。
3. 論文コースとクレジットトラックコースを設け、教員と学生が緊密に連携することにより、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した

能力を培うカリキュラムを編成する。

グローバル社会専攻（博士後期課程）

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. グローバル社会研究領域では、グローバル社会研究領域において、基本的な概念、方法論、重要な領域について既に高度な知識を修得している学生
2. 比較日本研究領域では、比較日本研究領域において、基本的な概念、方法論、重要な領域について既に高度な知識を修得している学生

ア. グローバル社会専攻 博士（グローバル社会研究）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たした者は、これらを身につけたものと認め、グローバル社会研究の学位を授与します。

1. 高度専門職にふさわしい専門知識
2. 博士論文は、文法的・語法的に正しく、明確かつ簡潔で適切な表現で書かれた文章であること、独創性、独自性のある研究テーマの設定が明確に示され、深く、適切な研究のもと説得力のある結論が導き出されていることを目指す。
3. 関連する基本的な概念に精通し、方法論を用いて達成された、グローバル社会研究領域における独創的な貢献をする力
4. 高等教育機関における教育研究職や、グローバルな諸事象に対する専門的な理解と分析を必要とする組織での職務に就くに十分な、グローバル社会研究領域に対する理論と方法の専門的知識を身に付けさせる。

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. グローバル社会研究の特定の領域で深い専門知識を修得し、かつ国際的なキャリアに必要な文化的対応能力を備える者を育成する。
2. コースワークとして講義、演習、実習等を体系的に組み合わせ、リサーチワークとして指導教員からの指導を受けるカリキュラムを適切に設ける。
3. 学生が、グローバル社会研究に関する創造性豊かな研究を自立して遂行できる知識と技能を身につけ、高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人を養成する。

イ. グローバル社会専攻 博士（比較日本研究）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たした者は、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 高度専門職にふさわしい専門知識
2. 博士論文は、文法的・語法的に正しく、明確かつ簡潔で適切な表現で書かれた文章であること、独創性、独自性のある研究テーマの設定が明確に示され、深く、適切な研究のもと説得力のある結論が導き出されていることを目指す。
3. 博士学位は、関連する基本的な概念に精通し、方法論を用いて達成された、比較日本研究領域における独創的な貢献をする力
4. 日本研究領域の特定分野において高等教育機関における教育研究職に就くに十分な専門性を身につけ、また、自らの専門分野において高度・革新的なレベルの研究を続けてゆく能力を身に付けさせる。

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 比較日本研究の特定の領域で深い専門知識を修得し、かつ国際的なキャリアに必要な文化的対応能力を備える者を育成する。
2. コースワークとして講義、演習、実習等を体系的に組み合わせ、リサーチワークとして指導教員からの指導を受けるカリキュラムを適切に設ける。
3. 学生が、比較日本研究に関する創造性豊かな研究を自立して遂行できる知識と技能を身につけ、高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人を養成する。

国際協力学専攻（修士課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本専攻では、一国の枠組みを超えた様々な「グローバルな課題」に対処し、国際社会の連帯を必要とする平和協力や平和構築、持続可能な経済や社会の開発、教育開発などの分野で、幅広い知見と実践力を兼ね備えた「グローバル人材」を育成することを目的とし、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。この修了要件を満たし、論文ないし研究課題審査に合格すれば、これらを身につけたものとみなし、学位を授与します。

1. 国際社会が必要とする国際協力の分野に関し、国際協力の理念、概念、理論を整理、理解し、さらに国際協力の方法論や国際協力を推進する国際機関、政府機関、NGO、民間セクターなどの役割と機能を学び、その上に立って国際協力に従事する上でのスキルと実践力を持つ。
2. 平和協力・平和構築や持続可能な開発/社会・教育開発の各分野で、国際社会のこれまでの取り組みや現状の状況に関する深い知見を持ち、様々な課題解決のために実践的かつ実現可能な政策や方策を見出す力を持つ。

3. 国際協力を推進する上で関連する国際関係論や国際社会学、国際経済学、統計学、教育開発、文化社会、地域研究など幅広い学識分野と連携させながら国際協力を考え、批判的および論理的議論の展開力、実践的コミュニケーション能力を有する。

4. 先行研究をふまえ、的確な構成、緻密な分析、明快、論理的で説得力のある学術論文もしくは研究課題を書く力

【カリキュラム・ポリシー】

本専攻では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「平和協力・平和構築研究」と「持続可能な開発/社会・教育開発研究」の二つの専門領域を柱とし、基礎科目（A群）と海外実習科目（B群）から成る中核科目群と、応用科目（C群）、応用実務科目（D群）、連携科目（E群）から成る専門科目群の2つの大科目群と5つの小科目群の中に、その二つの専門領域の科目をバランス良く配置します。それぞれの専門領域に応じて、中核科目群の基礎科目（A群）で得た幅広い知識をベースに、海外実習科目（B群）で海外の現場で国際協力に従事する上でのスキルと実践力を学び、専門科目群の応用科目（C群）や応用実務科目（D群）、連携科目（E群）を通じて、各専門領域の分析、論理構成、知見をさらに深め、専門性と実践力を高めるカリキュラムを編成しています。

1. 基礎科目（A群）では、二つの専門領域の基礎となる科目を配置し、幅広い領域を扱う国際連合や関連した専門的国際機関の役割や機能を学び、さらに国際協力に関する基礎科目や研究の基礎となる調査方法論、スキルの向上、国際公務員制度、コミュニケーション論などに関する科目を配置することにより、国際協力に関する基礎知識を修得させるとともに、思考力、論理的議論の展開力、実践的コミュニケーション力の基礎を養います。

2. 海外実習科目（B群）では、国連機関の本部が集中するニューヨークやジュネーブ、バンコクなどを拠点として、修了後の国際キャリアを目指す上で貴重な実体験を提供することにより、実務型の知識とスキルや実践力を向上させます。

3. 応用科目（C群）および応用実務科目（D群）では、各領域の知識を広め、分析力や思考力および議論の展開力を高め、専門性を深めるための科目を配置します。平和協力・平和構築領域では、国際連合などによる平和協力だけではなく、地域機関やサブ地域機関、専門的国際機関、国際NGO、民間セクターとの連携や主要国の外交が与える影響、人間の安全保障への貢献などの理解を深めます。持続可能な開発では、国連開発計画（UNDP）など開発系の国際機関や世界銀行やアジア開発銀行など国際開発金融機関の役割、政府による開発援助、私企業を含む民間セクターの直接投資、環境やジェンダーに即した開発論など、より実践的な科目を中心とします。社会・教育開発では、人口や人の移動と開発の関係や地域社会の役割、環境と開発のバランス、公教育における教育の公平性や質の向上だけでなく、学校外のノンフォーマルな教育開発にも寄与する要件を学ぶ機会を提供します。

4. 連携科目（E群）には、国際政治や国際政治経済の理論から国際開発協力における地域の特性や地域的開発アプローチの研究、海洋法やジェンダー論など多様な科目を配置し、二つの専門領域に関する学識分野についての幅広い知見を強化する役割を果たします。必要に応じて、他の研究科、専攻の科目を履修できるように設計し、専門領域の知見と分析力や思考力および議論の展開力をさらに高める機会を提供します。

〔アドミッション・ポリシー〕

1. 国際社会の政治的、経済的、社会的動きをよく理解し、グローバルな課題に対する国際社会の対応を国際システム、国家、地域社会レベルから分析する能力を持ち、国際協力に貢献する強い意思を持つ学生
2. 高い学問的探求心を持ち、同時に政策実現のための分析力、論理的思考力、表現力を備え、国際社会で通用する卓越した英語力とコミュニケーション能力を持つ学生
3. 国際協力分野での明確なキャリア志向やそれを実現するだけの能力に関し、過去の指導教員や職業上の上司にあたる人を含め、重要な資格において指導にあたった人物からの強い推薦を受けた学生

9. 理工学研究科

〔教育研究上の目的及び人材養成の目的〕

現代科学・技術の各学問領域でその進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的に捉える学際性とを併せ持つ、特色ある研究科を目指す。前期課程では学部教育との一貫性に配慮しながら、複合知と専門性を兼ね備えた知的能力を持ち、人間社会に貢献できる知的人材を育成する。後期課程では各専門分野で自立して研究を遂行できる研究者の養成を目的とする。

理工学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、現代科学・技術の各学問領域でその進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、人間社会に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 理工学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識を身につけるとともに、新技術の開発や新分野の開拓をできる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 自分の専門分野に関する研究内容について、適切な論文構成や整合性のある論理展開で、学術的価値を有する修士論文にまとめる能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、伝統的学問体系に応じた「領域」ごとのカリキュラム体制をとり、学部教育との一貫性にも配慮しながら、複合知を兼ね備えた専門能力を養成するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 自領域以外の領域、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野に

ついて広く知識を得させる。

2. 自領域が提供する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。

また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。

3. 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。

4. 「領域」として、次の9領域を設けている。機械工学領域、電気・電子工学領域、応用化学領域、化学領域、数学領域、物理学領域、生物科学領域、情報学領域、グリーンサイエンス・エンジニアリング領域。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 現代科学・技術の学問分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的に捉える学際性を併せ持つ学生

2. このような理念に共感し、それを達成するための基礎学力と研究意欲をもち、専門性と複合知を高めることを希求している学生

理工学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、現代科学・技術の各学問領域でその進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性をもち、各専門分野で自立して研究・開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力

2. 理工学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識を身につけるとともに、人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力

3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力

4. 自分の専門分野を中心に、高い専門性や独創性のある研究を行い、それらを専門分野に貢献できる学術的価値の高い博士論文にまとめる能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、指導教員による日々の研究指導に加えて、週1回以上の専門分野に関する英語の輪講・演習を設け、国際的に活躍できる高度な専門能力を養成するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 各領域における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵

養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

2. 自分の専門分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。
3. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
4. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、これにより英語力を積極的に向上させる。
5. 「領域」として、次の9領域を設け、専門性にも配慮したカリキュラム構成としている。機械工学領域、電気・電子工学領域、応用化学領域、化学領域、数学領域、物理学領域、生物科学領域、情報学領域、グリーンサイエンス・エンジニアリング領域。

【アドミッション・ポリシー】

本課程は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 現代科学・技術の学問分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的に捉える学際性を併せ持つ学生
2. このような理念に共感するとともに各専門分野で自立して研究を行う能力の養成を目指す学生

機械工学領域（博士前期課程）

【ディプロマ・ポリシー】

本領域では、機械工学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 機械工学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識を身につけるとともに、新技術の開発や新分野の開拓をできる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 自分の専門分野および関連する分野の先行研究を十分にふまえ、オリジナリティのある自分の研究を通して、学術的に構成された論文を執筆できる力

【カリキュラム・ポリシー】

機械工学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる力を涵養するため、機械工学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 機械工学領域以外の領域、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野について広く知識を得させる。

2. 機械工学領域が提供する材料力学、機械力学、熱工学、流体工学、精密工学、制御工学、材料科学、物理学、数学などに関する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。また、それらを基礎とした特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。
3. 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 機械工学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 機械工学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な材料力学、機械力学、熱工学、流体工学、精密工学、制御工学、材料科学、物理学、数学などに関する基礎学力を有している学生

機械工学領域（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、機械工学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力
2. 機械工学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識を身につけるとともに、人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力
4. 高度な専門知識を活かして自立して独創的な研究を行い、国際的なレベルの学術論文を執筆し、学術に貢献できる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

機械工学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。
2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究

機関にて研究を行い、これにより英語力を積極的に向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 機械工学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 機械工学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

電気・電子工学領域（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、電気・電子工学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 電気・電子工学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識を身につけるとともに、新技術の開発や新分野の開拓をできる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 自分の専門分野に関する研究内容を中心として、論理構成に一貫性があり、学術的価値の高い修士論文をまとめ上げる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

電気・電子工学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる力を涵養するため、電気・電子工学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 電気・電子工学領域以外の領域、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野について広く知識を得させる。
2. 電気・電子工学領域が提供する半導体、電力、情報通信などに関する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。

また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。

3. 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 電気・電子工学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 電気・電子工学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な電磁気学、電気電子回路論、物理学、数学などに関する基礎学力を有している学生

電気・電子工学領域（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、電気・電子工学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力
2. 電気・電子工学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識を身につけるとともに、人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力
4. 原著論文等により学会で認められた専門性の高い研究内容を中心とした幅広い内容について、オリジナリティの高い論理構成に基づき、学術的価値の極めて高い博士論文をまとめ上げる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

電気・電子工学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。
2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、これにより英語力を積極的に向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 電気・電子工学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 電気・電子工学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

応用化学領域（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、応用化学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより修得される、化学技術や化学物質が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 応用化学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識、及び、持続可能な人類の発展に資する新しい化学製品・化学技術の開発や新しい化学工業分野の開拓をできる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 研究論文や研究発表において、自分の研究を論理的かつ適切・明快な表現を用いて公表する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

応用化学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる力を涵養するため、応用化学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 応用化学領域以外の領域、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野について広く知識を得させる。
2. 応用化学領域が提供する有機合成化学、高分子化学、無機工業化学、工業物理化学および環境化学工学などに関する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。
また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。
3. 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 応用化学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 応用化学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な物理化学、無機化学、有機化学などに関する基礎学力を有している学生

応用化学領域（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、応用化学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身に

つけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことによって修得される、化学技術が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力
2. 応用化学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識、及び、持続可能な人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力
4. 専門性が高く独創性のある研究を自ら行い、研究成果を広く社会に発信するとともに、学術的意義の高い博士論文を完成させる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

応用化学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。
2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、これらにより英語力を積極的に向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 応用化学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 応用化学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

化学領域（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、化学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより修得される、基礎科学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 化学および伝統的学問体系に応じた関連分野（物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、環境科学）において最先端で活躍できる専門知識、真理の探究および人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力

4. 研究論文や研究発表において、自分の研究を論理的かつ適切・明快な表現を用いて公表する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

化学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる力を涵養するため、化学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 化学領域以外の領域、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野について広く知識を得させる。

2. 化学領域が提供する物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、錯体化学、環境科学などに関する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。

また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。

3. 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 化学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生

2. 化学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な物理化学、無機化学、有機化学などに関する基礎学力を有している学生

化学領域（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、化学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことによって修得される、自然科学における基礎科学が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力

2. 化学および伝統的学問体系に応じた関連分野（物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、環境科学）において最先端で自立的に活躍できる専門知識、真理の探究および人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力

3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力

4. 専門性が高く独創性のある研究を自ら行い、研究成果を広く社会に発信するとともに、学術的意義の高い博士論文を完成させる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

化学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。
2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、これにより英語力を積極的に向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 化学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 化学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

数学領域（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、数学の発展とその応用に寄与し、その専門知識を社会や次世代に伝えることで人間社会の発展に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 数学の基礎知識に加え、それ以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより、数学の基礎およびその社会への応用について多面的にとらえる力
2. 数学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識を身につけるとともに、真理の探究・理論の発展およびそれを広く社会や次世代に伝えることのできる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 数学に関する専門的な知識の理解と独創的な発想を持つ研究者として、学術論文を完成させる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

高度に発展した数学の理解と新たな真理の探究のため、体系的に専門的知識を学び、自ら思考して新しい数学的知見を創造し、数学の研究とは何かを学ぶとともに、それを広く社会や次世代に伝えて人間社会の発展に貢献できる力を涵養するため、数学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 数学領域の科目の受講を通じて基礎的知識を得るとともに、他領域および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野についても広く知識を得させる。
2. 数学領域が提供する解析学・代数学・幾何学・数理統計などに関する科目を受講し、これらについて

専門知識を得させる。また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。

3. 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、英語文献の講読、英語による学術講演の聴講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 数学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 数学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な数学の基礎分野および解析学・代数学・幾何学などのうち自らの専門とする分野などに関する基礎学力を有している学生

数学領域（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、数学の発展とその応用に寄与する高度な専門性を身につけ、社会や次世代に伝えるとともに、その及ぼす影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことにより、数学とその応用が社会に及ぼす影響を多面的にとらえる力
2. 数学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識を身につけて創造的な研究を行うとともに、それを広く社会や次世代に伝えて人類の発展や幸福に寄与できる力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力
4. 数学に関する専門的な知識の理解と独創的な発想を持つ研究者として、学術論文を完成させる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

数学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野を中心に数学の基礎的な学術論文や解説書などを精読することに加え、学際分野を含むその他の分野との関連・応用についても広く知識を得させる。
2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、これらにより英語力を積極的に向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 数学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 数学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

物理学領域（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、物理学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより、科学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 物理学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識を身につけるとともに、新分野の開拓や新技術の開発をできる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 先行研究を踏まえ研究の位置付けを明確に認識し、正しい方法論で理論やデータを扱い、緻密に結果を分析し、研究内容の価値を客観的に表現した学術論文、修士論文を作成できる能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

物理学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる力を涵養するため、物理学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 物理学領域以外の領域、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野について広く知識を得させる。
2. 物理学領域が提供する物性物理、光物性、原子・分子などに関する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。

また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。

3. 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 物理学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 物理学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な基礎数学、電磁気学、熱統計物理学、量子力学、化学物理などに関する基礎学力を有している学生

物理学領域（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、物理学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことにより、科学が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力
2. 物理学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識を身につけるとともに、人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力
4. 先行研究を踏まえ研究の位置付けを明確に認識し、正しい方法論で理論やデータを扱い、緻密に結果を分析し、研究内容の価値を客観的に表現した学術論文、博士論文を作成できる能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

物理学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。
2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、これにより英語力を積極的に向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 物理学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 物理学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

生物科学領域（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、多彩な生物現象を広く理解し、生物科学の進歩に寄与する専門性と、学際的研究分野への応用可能な知識を持ち、人間社会に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力

や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 学際分野も含めた自分の専門分野以外の自然科学分野、あるいは生命倫理などの問題を広範に学ぶことにより、人間社会への貢献や生物環境の保全などを多面的にとらえる力
2. 大学院生はさまざまな研究技術を修得し、専門分野を深く掘り下げるとともに、多様な講義を受けることにより、生命という未知の分野の開拓をできる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 適切な構成、明快な研究結果と評価、理論的で説得力のある学術論文を書くことができる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

生物科学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や生物環境の保全に貢献できる力を滋養するため、生物科学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 理工共通領域の科目、および生物科学領域以外の専門領域の科目を受講することにより、自然科学一般の基礎知識を得させる。
2. 生物科学領域が提供する分子、細胞、個体レベルの科目を受講し、生命に関する最先端の専門知識を得させる。また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。
3. 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、英語論文の熟読や輪読などにより、英語力を向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 生物の形やその仕組みに興味を持ち、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 生物科学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な基礎学力を有している学生

生物科学領域（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、生物科学における高度な研究能力と幅広く応用可能な専門知識を兼ね備え、生物科学の基礎研究を力強く推進できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、他の自然科学分野あるいは生命倫理などの学際分野も含め広範に学ぶことにより、バランスのとれた知識
2. 自分の研究分野において自立的に活躍できる最先端の専門知識を身につけるとともに、生命科学の発展に寄与する創造的な研究を行う力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力

4. 学会発表や、国際誌への論文への投稿・採択を経て、専門分野に貢献できる高い水準と独創性を備えた博士論文の完成させる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

生物科学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる能力をえるため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野に精通するだけでなく、学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、生命科学の分野において広く知識を得させる。
2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して精力的に研究を遂行し、研究の技術の修得、論文の掲載などを行ない、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行う。これにより英語力を積極的に向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 生物科学分野にて、自立して創造的な研究を遂行することに意欲的である学生
2. 生物科学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

情報学領域（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、情報学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 情報学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識を身につけるとともに、新技術の開発や新分野の開拓をできる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力
4. 専門分野に関する研究内容について、その研究成果を学術論文としてまとめる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

情報学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる力を涵養するため、情報学領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. 情報学領域以外の領域、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野について広く知識を得させる。

2. 情報学領域が提供する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。
3. 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 情報学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 情報学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な情報学、数学などに関する基礎学力を有している学生

情報学領域（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、情報学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力
2. 情報学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識を身につけるとともに、人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力
4. 専門分野に関する高度な研究内容について、その研究成果を広く発信し、学術的価値の高い学術論文としてまとめる力

〔カリキュラム・ポリシー〕

情報学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 自分の専門分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。
2. 自分の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、これにより英語力を積極的に向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 情報学分野において自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 情報学分野において自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力を有している学生

グリーンサイエンス・エンジニアリング領域（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、地球環境科学、工学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力
2. 地球環境科学、工学および関連分野において最先端で活躍できる専門知識を身につけるとともに、新技術の開発や新分野の開拓をできる力
3. グローバル化の進展に対応するため、社会で活躍できるレベルの英語力と地域及び社会とのつながりを理解する能力
4. 先行研究を踏まえて、自身の研究の位置付けを明確に認識し、正しい方法論で研究結果を分析し、研究内容の価値を客観的に表現した学術論文、修士論文を作成できる能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

地球環境科学、工学および関連分野の発展に寄与し、人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる力を涵養するため、グリーンサイエンス、グリーンエンジニアリング領域や他領域の科目を受講し、研究指導を受けさせる。

1. グリーンサイエンス、グリーンエンジニアリング領域以外の領域、および理工共通領域の科目を受講することにより、自分の専門領域以外の分野について広く知識を得させる。
2. グリーンサイエンス、グリーンエンジニアリング領域が提供する科目を受講し、これらについて専門知識を得させる。

また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学ばせる。

3. 受講する授業はすべて英語で行われ、研究成果の発表、論文の執筆などにより、科学における英語力を向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 地球環境科学、工学分野で勉学を行い、研究を遂行することに意欲的である学生
2. 地球環境科学、工学分野で勉学を行い、研究を遂行するために必要な科学、工学全般に関する基礎学力を有している学生

グリーンサイエンス・エンジニアリング領域（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本領域では、地球環境科学、工学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自分の専門分野だけでなく、関連する学際分野なども含め広範に学ぶことにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力
2. 地球環境科学、工学および関連分野において最先端で自立的に活躍できる専門知識を身につけるとともに、人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力
3. グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの研究力とコミュニケーションスキル
4. 先行研究を踏まえて、自身の研究の位置付けを明確に認識し、正しい方法論で研究結果を分析し、研究内容の価値を客観的に表現した学術論文、博士論文を作成できる能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

地球環境科学、工学における高度な専門性と関連分野の広範な知識を有し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、演習を受講し研究指導を受けさせる。

1. 地球環境科学、工学分野以外の学際分野などの学術論文や解説書などを精読することにより、これらの分野について広く知識を得させる。
2. 地球環境科学、工学分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学び、研究の集大成として博士論文を提出させる。
3. 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、これによりコミュニケーションスキルを積極的に向上させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本領域は、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 地球環境科学、工学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行することに意欲的である学生
2. 地球環境科学、工学分野にて、自立して創造的な研究開発を遂行するために必要な専門知識と英語力

を有している学生

1 1. 地球環境学研究科

〔教育研究上の目的及び人材養成の目的〕

地球環境問題の解決にむけ、高い使命感をもち、社会科学と自然科学の知識を総合し、理論と実践を結び付ける優れた知力・学力を有する人材の育成を目指す。前期課程においては、高度専門的な職業を担う人材と知的素養に優れた人材を、後期課程においては、国際的な水準の地球環境学の教育・研究を目指す人材を養成する。

地球環境学専攻（博士前期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、地球環境問題や環境学の専門家として、環境関連の社会科学と自然科学についての幅広い専門知識と様々な理論と実践を体得し、持続可能な社会の実現に貢献できると見なされる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 地球環境問題や環境学についての幅広い専門的知見
2. 地球環境問題や環境学についての幅広い実践的知識
3. 地球環境問題や環境学の解明すべき研究課題に対して、社会科学と自然科学の知識の総合化や理論と実践の結合などによる適切な研究方法及び分析手法を提案できる力。また、自らの主張を論理的に記述し、口頭で伝達することができ、社会に情報を発信する力
4. 前項を実現する方法として、論文作成において的確な論文構成と明快な論理展開ができる能力
5. グローバルな視点と対応能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、地球環境問題や環境学に関する、広範な分野についての専門知識と様々な理論と実践を効果的に体得するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 地球環境問題や環境学が提起する課題が常に自然科学的側面と人文・社会科学的側面をもっていることを踏まえた文理融合型の広範かつコンパクトな見通しの良いカリキュラムとするため、環境法律・政策・社会学、環境経済・経営、環境理工の3つの科目群をバランスよく配置する。
2. 問題を適切に認識するための知的枠組み（ディシプリン）の修得と同時に、問題を解決するための実践的あるいは実務的知識をバランスよく身につけることが可能なカリキュラムとするため、講義科目や演習・セミナー科目等において、最先端の取り組みや現場における知見を学ぶことができる機会を積極的に取り入れる。
3. 本学の教育の特色である小人数教育による教員と学生の多彩なコミュニケーションが可能なきめ細か

な教育が可能なカリキュラムとするため、講義科目や演習・セミナー科目等において、研究・分析方法の修得や発表・意見交換を行う機会を取り入れる。また、修士論文執筆と口頭報告の能力の修得のため、第4学期目の始めに論文構想発表会を配置する。

4. 地球環境問題の解決のための国際協力の必要性が高まる中で、積極的に留学生を受け入れ、国際的に活躍する人材を育成するために、英語のみを用いた講義と指導によるカリキュラムの英語コースを設置するとともに、日本語コースと英語コースの講義科目の枠を越えた相互乗り入れを可能とし、演習・セミナー科目等において様々な国籍の学生が交流しつつ学ぶことができる機会を積極的に提供する。また、社会人が学びやすいように、夜間、土曜日に講義科目を配置し、働きながら必要な単位を履修できるように配慮を行う。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、今日の緊急的課題である地球温暖化問題をはじめとする、多くの環境問題についての効率的で効果的な解決に向け、高い使命感をもち、社会科学と自然科学の知識を総合し、理論と実践を結びつけるすぐれた知力・学力を有する人材の育成を目指しています。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めています。

1. 深刻化しグローバル化する環境問題に強い関心をもっている学生
2. 社会科学、自然科学、あるいは人文科学に対する基礎的な学力をもっている学生
3. 複数の領域にまたがる学問的知見を身につけ、発展させようという意欲を有する学生
4. 地域、企業、行政や NPO などの場で、他者との協働を通じて、環境問題の解決に具体的に貢献するという意志をもっている学生

地球環境学専攻（博士後期課程）

〔ディプロマ・ポリシー〕

本課程では、地球環境学に関する国際レベルの研究能力を有していると認められ、また、自立して研究・開発が遂行でき、持続可能な社会の実現に貢献できると見なされる専門的人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 地球環境問題や環境学についての幅広く、かつ特定の分野・課題についての深い専門的知見
2. 地球環境問題や環境学についての幅広く、かつ特定の分野・課題についての深い実践的知識
3. 地球環境学の解明すべき研究課題に対して、社会科学と自然科学の知識の総合化や理論と実践の結合などによるオリジナリティーのある研究能力を身に付け、自立して研究・開発を行うことができる力。また、自らの主張を論理的に記述し、口頭で伝達することができ、社会に情報を発信することができる力
4. 前項を実現する方法として、オリジナリティーのある学術論文を執筆し、外部発表できる能力
5. グローバルな視点と対応能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、地球環境問題や環境学に関する、広範な分野についての専門知識と様々な理論と実践を効果的に体得するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 地球環境問題や環境学が提起する課題が常に自然科学的側面と人文・社会科学的側面をもっていることを踏まえた文理融合型の広範かつコンパクトな見通しの良いカリキュラムとするため、環境法律・政策・社会学、環境経済・経営、環境理工の3つの科目群からコースワーク科目をバランスよく配置する。
2. 問題を適切に認識するための知的枠組み（ディシプリン）の修得と同時に、問題を解決するための実践的あるいは実務的知識をバランスよく身につけることが可能なカリキュラムとするため、コースワーク科目や研究指導等において、最先端の取り組みや現場における知見を学ぶことができる機会を積極的に取り入れる。
3. 本学の教育の特色である小人数教育による教員と学生の多彩なコミュニケーションが可能なきめ細かな教育が可能なカリキュラムとするため、コースワーク科目や研究指導等において、研究・分析方法の修得や学会発表等を積極的に取り入れる。また、論文構想発表や資格論文審査などにより、博士論文執筆と口頭報告の能力の修得と提出資格の測定を適切に行う。
4. 地球環境問題の解決のための国際協力の必要性が高まる中で、積極的に留学生を受け入れ、国際的に活躍する人材を育成するために、英語のみを用いた講義と指導によるカリキュラムの英語コースを設置するとともに、日本語コースと英語コースの講義科目の枠を越えた相互乗り入れを可能とし、様々な国籍の学生が交流しつつ学ぶことができる機会を積極的に提供する。また、社会人が学びやすいように、働きながら必要な単位を履修できるように配慮を行う。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、前期課程で培った環境問題についての効率的で効果的な解決に向け、高い倫理感と使命感をもち、社会科学と自然科学の知識を更に発展させる人材を求めています。具体的には、以下のような資質を持つ学生を求めます。

1. 深刻化しグローバル化する環境問題の幅広い分野に、関心をもっている学生
2. 社会科学、自然科学、あるいは人文科学に対する基礎的な学力を有し、それを応用する力を持っている学生
3. 高度で独創的な研究を行い、学会での研究報告や学術誌への積極的な論文発表を行うと共に、優秀な博士論文を執筆し、博士号を取得することを志している学生
4. 修了後には、国内外の研究機関や地域、企業、行政、NPO、国際機関などで、他者との協働を通じて、環境問題についての研究・教育活動、環境問題の解決のための活動に具体的に貢献するという意志をもっている学生

12. 応用データサイエンス学位プログラム

〔教育研究上の目的及び人材養成の目的〕

応用データサイエンスおよび関連分野の発展に寄与するとともに、データサイエンスに係る専門知識を

実社会に応用・展開して、現代社会における多様な課題の解決に取り組み、人間社会の発展に貢献できる高度専門職業人の養成を目的とする。

[ディプロマ・ポリシー]

本学位プログラムでは、応用データサイエンスおよび関連分野の発展に寄与するとともに、専門知識を実社会に応用・展開し、データサイエンスを用いて人間社会の発展に貢献できる人材の養成を目的に、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 応用データサイエンスおよび関連分野において最先端で活躍できる専門知識を身につけるとともに、新手法の開発や新分野の開拓をできる力
2. 自らの専門分野に加え、それ以外の自然科学あるいは社会科学との学際分野も含めて広範に学ぶことにより、データサイエンスが人間社会や地球環境に与える影響などを多面的に捉える力
3. 専門分野に関する課題について、データの収集、分析、活用まで幅広く実行できる力
4. 自らの研究成果を論理的に整理して的確に伝え、特定課題研究としてまとめる力
5. 研究課題の達成を通じて、実社会においてグローバルレベルで即戦力となり、データ活用社会を牽引する力

[カリキュラム・ポリシー]

本学位プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに沿って、データサイエンスを様々な分野に応用し、データ活用社会を牽引する力を養成するために、データサイエンスの基礎知識やスキルおよびリテラシーや学術的な視点、実務に活用・応用できる実践力を習得するための幅広い専門科目を配置して、以下のようにカリキュラムを編成している。

1. データサイエンスの基礎から実践まで幅広い分野を俯瞰し、本プログラムで学ぶ内容の理解を促すための必修科目として「応用データサイエンス特論」を1年次春学期に配置する。
2. データサイエンスの基礎スキルやリテラシーの習得とあわせ、データを扱う上で配慮すべき倫理的側面の理解を促す講義・演習科目を1年次に配置する。
3. データサイエンスおよび関連分野に関する学術的な視点や専門知識および実務で応用するための視点やスキルを習得する講義科目を1年次に配置するとともに、それらの視点や知識・スキルを実社会で活用する力を養う必修科目として「導入演習」を1年次秋学期に配置する。
4. データサイエンスを応用した実例を体感し、データの収集、分析、活用等の実践力を習得するための実践系講義科目およびインターンシップ、学術的な応用力を養成するための様々な学問分野における分析手法や応用事例を学ぶ連携科目を2年次に配置する。
5. 特定課題作成と口頭報告の能力を習得するための必修科目として、学術的なアプローチによる指導を行う「演習 A」、それと並行して実社会での動向や事例を踏まえた指導を行う「演習 B」を2年次に配置するとともに、両科目を横断する形での合同研究報告会を実施する。
6. 研究を現実の社会問題に応用する力を習得するため、各専門科目においてディスカッションや演習を取り入れるとともに、関連学会への参加を促進する。

〔アドミッション・ポリシー〕

本課程は、次のような資質と意欲をもつ学生を求めています。

1. データサイエンスに係る専門知識を積極的に活用し、現代社会における多様な課題の解決に取り組み、応用データサイエンスによって人間社会の発展に貢献できる学生
2. 応用データサイエンスの知識・技術を用い、実践的データを活用した新たな分野を社会で開拓・発展させようという意欲をもっている学生

以 上